

2018.4



会 誌

[62号]

一般社団法人
保健医療福祉情報システム工業会

目次

巻頭言	理事	田中 啓一	2
官公庁等のご挨拶	厚生労働省大臣官房参事官（情報化担当）	末岡 隆則	4
	経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課長	西川 和見	6
	総務省情報流通行政局情報流通高度化推進室長	渋谷 闘志彦	8
部会長の ご挨拶・抱負	運営会議 議長	下邨 雅一	10
	総務会 会長	浅野 正治	11
	標準化推進部会 部会長	大沢 博之	12
	医事コンピュータ部会 部会長	高橋 祐一	13
	医療システム部会 部会長	藤岡 宏一郎	14
	保健福祉システム部会 部会長	高橋 弘明	15
	事業推進部会 部長	青木 順	16
海外視察の報告	HIMSS AsiaPac17 視察	下邨 雅一	17
	HIMSS AsiaPac17 視察	田口 剛	28
	デンマークにおける医療保険制度・医療 ICT 化視察調査報告		33
トピックス	第 23 回 JAHIS 講演会 & 賀詞交換会を開催しました		42
	平成 29 年度 第 26 回医事コンピュータ部会 業務報告会・特別講演		44
	2017 年度 医療システム部会業務報告会 開催される		46
	平成 29 年度 保健福祉システム部会 業務報告会開催		48
	平成 29 年度標準化推進部会 業務報告会開催される		50
	HL7 セミナー開催		52
	(1) 日本薬剤師会学術大会（2017/10）		53
部会から	調査委員会活動状況と精度向上への取り組みについて	岩村 浩正	55
	標準化推進部会 活動報告	福岡 衡治	59
	DICOM 国際会議の日本開催	近藤 恵美	64
	地域医療連携ネットワークの動向と標準化への取り組み	田中 良樹	67
	教育事業「勉強会」について	三田村 一治	70
運営状況報告	理事会／運営会議／総務会／委員派遣ならびに協賛・後援		74
全員メール			86
会員紹介	株式会社 J R 東日本情報システム／ソニー株式会社／ みらい工房株式会社／株式会社 LITALICO／ 株式会社 DNP アイディーシステム		89
事務局新人紹介	新任のご挨拶	谷口 浩一	92
編集後記			94

ご挨拶



理 事
日本事務器(株)
代表取締役 CEO

田中 啓一
Tanaka Keiichi

一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会（JAHIS）会員の皆様、当工業会の活動にご理解、ご支援賜り、心より御礼申し上げます。

皆様ご存知の通り、来たる2025年超高齢社会に向け、わが国は「地域医療構想」や「病院機能の再編」、「地域包括ケアシステムの構築」といった医療・介護における提供体制の改革を進めてきております。各自治体や医療機関が、その提供体制の現状を見据えながら検討・再編を行う時期に入ったと言えます。

本年（2018年4月）に施行された医療・介護報酬同時改定は2025年に向けての基盤となる改定とも捉えられ、以下3点の内容が基本認識としてあげられています。

- ・人生100年時代を見据えた社会の実現
- ・どこに住んでいても適切な医療・介護を安心して受けられる社会の実現（地域包括ケアシステムの構築）
- ・制度の安定性・持続可能性の確保と医療・介護現場の新たな働き方の推進

今回の改定では医療でのコミュニケーションツール等を用いたオンラインでの遠隔診療が評価対象となり、介護でもセンサーやロボットを活用した夜間見守り等が評価対象となっています。今後も基本認識に沿いながら新しい医療・介護の提供方法や、新しい働き方を促進するための評価策定は進んでいくものと思われます。

また、厚生労働省が定めた医療ICT分野での平成30年度予算概算要求における主要事項には2020年稼働を目指した以下の内容が組み込まれています。

- 1 「医療保険分野における番号制度の利活用推進」
- 2 「医療等分野におけるIDの導入」
- 3 「保健医療記録共有サービスの実証」
- 4 「データヘルス分析関連サービスの構築に向けた整備」
- 5 「全国保健医療情報ネットワークのセキュリティ対策に係る基盤整備」

これらの基盤構築や整備を主軸とし、データ利活用の方針に沿う内容となっております。

一方で、ガートナーのハイプ・サイクルによると、IoT、人工知能やブロックチェーンなどは黎明期を終え『過度な期

待』のピーク期が近づいてきており、積極的な投資が見込まれています。その期待は未来投資戦略2017-Society5.0-の実現に向けた改革にも反映されています。

未来投資戦略における第四次産業革命（IoT、ビッグデータ、人工知能（AI）、ロボット、シェアリングエコノミー等）は、イノベーションをどのように社会へ取り入れていくかが課題となっており、金融等で注目されているブロックチェーンは、金融業界のみならず、ヘルスケア領域にも熱い注目がなされています。

昨今注目が高まっている「RPA」（Robotic Process Automation）についても、ヘルスケア領域においては重要視しなければなりません。

まず考えられるのが、医療事務などのバックオフィスの自動化です。医療事務業務においては、診療受付から患者の会計およびレセプト請求まで、End to Endで自動化することが可能となるため、病院全体での横断的な導入の検討が必要と考えられます。さらに、病院内全体における業務の「見える化」を行い、医師や看護師、コメディカルの事務作業についても、RPA化することで、医療従事者が患者のために使える時間をもっと増やすことができるようになるでしょう。

医療業務には人が介在するプロセスが少なくなく、ITに置き換えることで大幅な効率化が実現され、これまでに想定し得なかった新たなベネフィットが生まれる可能性が期待されます。

これら素晴らしい革新的なIT技術があるにも関わらず、実用化・浸透・普及しない要因は、最先端技術であるからこそ、導入に慎重にならざるを得ないことに考えています。

実現に向け我々ヘルスケアメーカー・ベンダーが推進役となり、その有効性を啓蒙していく必要性があると考えています。またDigitalTwinを意識したリアルワールド、デジタルワールドを整合させる仕組み作りを早急に行い、標準化作業はもちろんのこと、今後は保健医療福祉システム分野のみならず、健康、フィットネス等の各業態やコンシューマが当たり前利用できる、デファクト・スタンダードとの融合も視野に入れて、活動する時期が到来しているとも考えております。

JAHISの会員各位におかれましても2018年は、2025年というターゲットへと繋がる節目になる年であると同時に発展のチャンスとなる年であると存じます。皆様の更なる発展に繋がるよう、当工業会は保健医療福祉システムに関する標準化、技術向上、品質及び安全性確保を図ることを努力し、更なる飛躍を目指してまいります。今後ともご支援、ご協力を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたがJAHIS会員皆様のご発展とご健勝を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

ご挨拶



厚生労働省大臣官房参事官
(情報化担当)

末岡 隆則

Sueoka Takanori

一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会及び会員各社の皆様方におかれましては、平素より厚生労働行政の推進にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

健康・医療・介護分野は、ＩＣＴの利活用の推進により、サービスの質の向上や効率化が期待されています。

健康・医療・介護分野におけるＩＣＴの利活用をめぐることは、平成28年10月に厚生労働大臣の私的懇談会である「保健医療分野におけるＩＣＴ活用推進懇談会」の報告書がまとめられ、この中で、保健医療システムのパラダイムシフトの実現に向け、患者・国民にとって価値あるデータを「つくる」こと、患者・国民中心にデータを「つなげる」こと、保健医療の価値を高めるためにデータを「ひらく」ことについて提言がなされました。

これを踏まえ、厚生労働省においては、平成29年1月に「データヘルス改革推進本部」を設置し、同年7月に「全国的なネットワーク構築による医療・介護現場での健康・医療・介護の最適提供」、「国民の健康確保に向けた健康・医療・介護のビッグデータ連結・活用」、「科学的介護の実現」、「最先端技術の導入」を柱とする「国民の健康確保のためのビッグデータ活用推進に関するデータヘルス改革推進計画」を取りまとめました。

現在、保健医療記録共有、救急時医療情報共有、ＰＨＲ・健康スコアリング、データヘルス分析、乳幼児期・学童期の健康情報、科学的介護データ提供、がんゲノム、人工知能（ＡＩ）等のテーマごとに、この計画に掲げられた各種サービスの具体化に向けた検討を進めています。

また、健康・医療・介護については、「未来投資戦略2017」（平成29年6月閣議決定）や「新しい経済政策パッケージ」（平成29年12月閣議決定）等の政府方針においても、ＩＣＴの利活用を推進すべき重要な分野の一つとして位置付けられています。

健康・医療・介護分野でのＩＣＴの利活用を進めるに当たっ

ては、これらの分野における情報の電子化・標準化、安全かつ低コストで使いやすい標準化された情報システムの開発・普及や医療情報連携ネットワークの普及等、安全かつ効率的な情報連携の基盤の整備が求められています。

厚生労働省としては、国民がその恩恵を実感できるような形で健康・医療・介護分野におけるＩＣＴの利活用を進めるべく、今後とも、国民、関係機関・団体の皆様方のご意見をお聞きしながら、各種の施策を着実に実施していきたいと考えております。こうした取組を進めていく上で貴会及び会員各社の皆様方のご協力が不可欠でありますので、引き続き、ご理解、ご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

ご挨拶



経済産業省
商務・サービスグループ
ヘルスケア産業課長

西川 和見
Nishikawa Kazumi

医療分野におけるデータの活用に向けて

保健医療福祉情報システム工業会（JAHIS）並びに会員企業の皆様方には、日頃から健康・医療分野における情報化の推進に御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

現在、政府としては、2020年度の健康・医療・介護のICTインフラの本格稼働に向けた基盤の整備を成長戦略の中でも大きな柱と位置付けて、JAHISの皆様の協力をいただきながら、推進しています。データ利活用基盤を活用し、日本発のイノベーションを起こしていくことが重要です。

機微性の高い医療情報の利活用に特別な配慮が必要であることは言うまでもありません。特に医療情報の収集は、医療情報を提供いただく患者や医師の皆様に御理解いただきながら進めることが不可欠です。そのためには、その医療情報を活用したイノベーションが、医療現場や個人に成果がしっかり還元され、それが医療の質の向上につながることを目指すべきです。

他方で、世界を見てみると、海外ではデジタルヘルスケアの分野への民間投資が、成功・失敗を問わず積極的に行われています。それに比べて、国内では、この領域での民間の投資がもう少し積極的に進んでいくべきではないかと思っています。例えば、米国でのヘルスケアITベンチャーへの投資額は日本の数十倍から数百倍に、欧州でも日本の十倍に上るという情報もあります。このままでは、日本の医師のノウハウや患者のニーズを十分に踏まえられていない製品やサービスが市場を席巻する可能性もあります。世界的に見ても高い水準にある日本の医師のノウハウや患者のニーズを踏まえた製品・サービスが生まれてくるためにも、民間投資を活性化していかなければなりません。

昨年末、デジタルヘルスを推進している各国のキーパーソンと意見交換をしてきましたが、総じて日本に対して高い期待を持っていました。1億以上の人口に対して、しっかりした医療サービスが提供されており、しかも一定程度標準化され、個人情報や倫理審査など適切なプロセスを経た質の高いデータすなわち「クオリティーデータ」が集められる可能性がある日本は、世界的にみてもイノベーションの拠点として、高い潜在性

があるのです。

このような背景から、経済産業省としては国内に豊富に存在する健康・医療情報が、民間も含めて、安全かつ効率的に活用され、医療の質を高めるイノベーションが実現するために何が必要なのか、検討を始めています。医師会やアカデミア、厚生労働省や関係省庁、そしてJAHISを始めとする産業界の皆様にも参画いただいて研究会を立ち上げ、課題整理・論点整理を行っています。

医療情報の利活用については、公共領域と競争領域に分けて議論しなければなりません。2020年に向けて、制度に基づいて、様々なデータをしっかり収集するいわば公共領域と、民間の投資でしっかり活用していく競争領域があります。また、競争領域の中も、大きく4分野くらいあるのではないかと考えています。

1つ目は個別化されたヘルスケアサービス、PHR等を通じて、個人の医療情報をセキュアに活用し、個々人の健康情報・医療情報に応じて、パーソナルヘルスケアに活用していく。逆にそのようなサービスを通じて収集されたバイタルデータ等を含めた健康情報を、医療の現場の参考データとして返していくようなことも考えられます。

2つ目は医療従事者どうしがリアルタイムで情報を交換するいわばプロフェッショナルバージョンのSNSのようなコミュニケーションツールです。通常の民間サービスではなく、機微な医療情報も取り扱えるような、セキュアでしっかりしたサービスである必要があります。

3つ目は、次世代医療基盤法やその他公的なデータベース等も活用しながら、匿名情報を活用して創薬メーカーやAI事業者が新薬や診断補助機器を開発していく世界があります。

4つ目は、アメリカなどで進んでいる部分でもあると思いますが、医療機関や保険者の業務をより効率化するために、医療期間・保険者と一緒になって、公的データベース等の情報を活用しながらコンサルティングサービスを提供するものがあると思っています。

この4つくらいの領域に分けて、それぞれに、日本または世界でどんなサービスがあるか。それを活性化する上に重要な論点、ハードルは何があるかといったようなものをJAHISの皆様にもご協力いただき、考えていきたいです。

議論しなければならない論点はまだまだたくさんあります。医療情報を民間分野でも安全かつ効率的に活用するためにはどのような環境整備が必要か、特に、日本のフィールドにおける研究開発の魅力をどのように対外的に発信していくか。また、患者や医師に医療情報の収集・提供に積極的に協力してもらうために、長期的な信頼関係が不可欠ですが、民間企業を含めた利活用者はどのような点に気をつけないといけないのか。さらには、競争領域において適正な競争が行われるために、セキュリティ面の配慮やグレーゾーンの明確化などの議論が必要なのではないか。

それらの論点をしっかりと整理していきながら、経済産業省としても、このようなコンセプトにあう民間投資を積極的に支援していきたいと考えております。JAHIS会員企業の皆様とは、密接に連携を取らせていただきたいと考えています。引き続き、皆様の御支援、御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

ご挨拶



総務省情報流通行政局
情報流通高度化推進室長

渋谷 闘志彦

Shibuya Toshihiko

一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会、そして会員の皆様方におかれましては、平素より総務省のICT政策にご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、日頃から貴法人の「医療情報システム入門」を活用させていただいており、心より感謝申し上げます。

会誌62号が平成30年4月に発刊される予定とのことです。本稿では、総務省（情報流通高度化推進室）において平成30年度に取り組みたいと考えている施策をご紹介します。

同施策は、大きな柱として以下の2項目から構成されています。

- 1 医療・介護・健康分野におけるネットワーク化の推進
- 2 医療・介護・健康分野における先導的ICT利活用研究の推進

「1」については、総務省として、これまで、ICTの利活用を推進する立場から、厚生労働省をはじめとする関係府省と連携して、地域の医療機関間（病院と診療所など）の連携を中心に実証や補助事業に取り組んできましたが、平成30年度は、これに加え、医療機関と介護施設の連携（医療・介護連携に必要なデータ標準化の推進等）、医療機関と個人の連携（遠隔診療（オンライン診療）のモデル策定、EHR（Electronic Health Record、地域医療情報連携ネットワーク）とPHR（Personal Health Record、個人が自らの医療・介護・健康データを管理・活用する仕組み）の接続にかかる課題抽出など）に関する実証事業に取り組む予定です。

介護分野におけるICT利活用については、厚生労働省と総務省が連携して効果的な取組を推進することとしており、厚生労働省が①科学的介護の実現に向けたデータベース構築、②介護事業所における生産性向上ガイドラインの作成、③介護事業所間連携におけるICT標準仕様の作成に、総務省が①医療・介護連携のデータ標準化に向けた実証、②介護分野における先導的ICT利活用モデルの構築に取り組むこととなっています。

遠隔診療（オンライン診療）については、厚生労働省策定の新たな指針（ガイドライン）を踏まえ、主に技術的な観点から、適切なネットワークセキュリティの在り方や有効な本人確認方法などを明確にし、安全かつ有効にオンライン診療を実施

するための優良モデルの構築を目指したいと考えています。

なお、総務省では、平成29年度に、クラウド技術を活用し、多職種が双方向かつ標準準拠でつながるEHRを整備する事業を支援する補助事業を全国16箇所で開催しましたが、この補助事業で得られた課題、改善・解決策等を取りまとめて公表し、全国で高度かつ低コストのEHRが普及していく後押しをしていきたいと考えています。

また、同じく平成29年度には、全国のEHRを相互に接続する基盤の構築に向けた検証にも取り組みました。標準規約によるデータ交換、セキュリティの確保といった様々な論点について、課題と対応策を取りまとめました。この成果は、厚生労働省における全国保健医療情報ネットワークの本格稼働に向けた検討の材料となっています。厚生労働省では、本実証事業も踏まえ、平成30年夏を目途に同ネットワークに関する工程表を示すことになっています。

次に、「2」については、今年度も実施しているPHRを活用したサービスモデル及びプラットフォーム構築の研究、AIを活用した保健指導システムの研究及び8K等高精細映像データ利活用の研究に引き続き取り組む予定です。

PHRについては、具体的に、①妊娠・出産・子育て支援、②疾病・介護予防、③生活習慣病重症化予防、④医療・介護連携にかかる新たなサービスモデルの開発及びサービス横断的にデータを管理・活用できる連携基盤（プラットフォーム）の開発に取り組めます。これらは平成28年度から3年計画で進めており、平成30年度は最終年度としてその具体的な成果を取りまとめることになります。

8K等高精細映像データ利活用の研究については、外科医からのニーズが高い「8K内視鏡」の開発などに取り組んでいます。8K内視鏡は、臓器への損傷やがんの取り残しを防ぐ、安全で質の高い手術を行えるものと期待されています。将来、5Gの実現などにより、8Kなどの大容量映像の通信が円滑に行えるようになれば、質の高い遠隔医療の実現・普及にも大きく資すると考えています。

なお、総務省では、平成29年8月から、「ASP・SaaS事業者が医療情報を取り扱う際の安全管理に関するガイドライン」の改定に向けた検討を進めています。改定のポイントとしては、①EHR（運営主体）の位置付けの明確化、②PHRサービスの位置付けの明確化、③スマートフォン等のモバイル端末で医療情報を取り扱う際の要求事項の整理などが挙げられます。平成30年度のできるだけ早期に意見募集（パブリックコメント）を行い、6月頃までに改定を行いたいと考えています。

総務省では、今後とも、関係府省と連携し、医療・健康・介護分野におけるICT利活用の推進に尽力していききたいと考えています。そのためには、上記の取組をはじめ、様々な局面で保健医療福祉情報システム工業会の皆様のご協力が不可欠であることは言うまでもありません。これまでのご協力に深く感謝いたしますとともに、今後とも一層のご理解とご協力をお願いできれば幸いです。

最後に、保健医療福祉情報システム工業会及び会員の皆様方のご健勝と更なるご活躍を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

ご挨拶

運営会議 議長
(富士通株)

下邨 雅一 Shimomura Masakazu



JAHIS会員の皆様におかれましては、平素よりJAHISの事業運営にご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。新年度にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

今年度は4月に診療報酬と介護報酬の同時改定が行われました。また、8月には高額療養費の改定も予定されています。昨今、「働き方改革」が叫ばれている中、関係者にとっては暫く厳しい状況が続きますが、JAHISとしては、関係機関との正確、かつ、迅速な情報共有により、各会員が確実に対応できるよう、今後も取り組んでまいります。また、医療情報の標準化の策定や普及推進に関しても、行政、学会、関連団体等と連携して、医療情報の相互接続性／相互運用性の確保、さらには医療安全／患者安全にも貢献していきたいと考えております。なお、これらの活動を継続していくためには、人材確保と育成が必要不可欠ですので、各会員の皆様のご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、わが国は世界に先駆けて超高齢社会に突入しました。医療費の高騰が続いており、健康・医療政策やシステムの抜本的な改革が欠かせないと言われています。これからは健康寿命の延伸と、病気と共存しながらQOL（Quality of Life）の維持向上を目指す医療に変わっていくものと思われます。政府の「健康・医療戦略」や「官民データ活用推進基本計画」「未来投資戦略2017」では、医療情報連携ネットワークやAIなどの技術を最大限活用し、「データ利活用基盤」を構築すると宣言しています。また、医療情報はその大部分が「要配慮個人情報」に該当するため、その機微な情報の保護と利活用推進の両面で、改正個人情報保護法や次世代医療基盤法等、様々な法整備も行われています。ビッグデータ、IoT/IoE等の活用によるヘルスケアICTへの期待も益々大きくなっています。

ところで、健康・医療分野のICT化で最も重要なことはデータの精度です。AIのディープラーニングも、誤ったデータを学習させたのでは正しい結果を導くことができません。したがって、単に表示レベルでの情報伝達ではなく、二次利用を目的にする場合は、例えばHL7等のインタフェース仕様、すなわち、「入れ物」を規定するだけでは十分ではありません。そこに含まれる用語や単位などを含めたコンテンツの表現方法の標準化が必要です。これには様々な課題があり、JAHISだけで全て解決できるわけではありませんし、一朝一夕で解決できるものでもありません。しかしながら、今後は医療機関から出力されるデータに加え、健診施設や介護施設、さらには一般家庭から出力されるデータも活用されていくと考えます。臨床系の学会を含め、関係する各種団体と共に協議し、課題解決に向けた検討の加速化を図っていききたいと思います。

また、JAHISは来年4月に創立25周年を迎えます。一つの節目の年になりますが、新しい時代に繋がるよう、様々な社会課題を解決する「Society 5.0」の実現など、ICTを活用して国民一人ひとりが「安全・安心・豊かさを実感できる社会」を形成できるよう、JAHISも貢献していきたいと思っております。

今後も、行政や学会、各標準化団体とも密接に連携しながら、医療情報標準化の推進、技術の向上、品質及び安全性の確保を図り、国民の保健・医療・福祉に寄与するヘルスケアICTを実現すると共に、業界全体の健全な発展に貢献するよう、事業運営をしていく所存です。ご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

ご挨拶

総務会 会長
(日本アイ・ビー・エム(株))

浅野 正治 Asano Masaharu



会員の皆様におかれましては、平素より、JAHIS活動にご協力いただき、厚くお礼申し上げます。

昨年度は、会員数も過去最大となる380社を越え、ますます発展する工業会となりました。また、売上高調査も5,600億円を超える結果となり、JAHISの会員の皆様には順調にビジネスを伸長しているものと理解しております。

さて、今年度の診療報酬改定では、「テレビ電話などで患者を診る『遠隔診療』の報酬を新設」、「ニーズに合わせた病床再編を促し、かかりつけ医の役割を強化」、「訪問診療や夜間・休日に対応するかかりつけ医を対象に初診時に800円を上乗せ」、「介護と連携して在宅医療や施設でのみとりを進める」など、新たなビジネス・ニーズや、再編や新規対応に伴う改修など会員各社の追い風になる部分もある一方、調剤部門に目を向けると「いわゆる門前薬局は大手薬局グループの報酬を引き下げる」など、厳しい改定も見受けられました。

日本医師会の横倉会長は、日本歯科医師会、日本薬剤師会との合同記者会見で、2018年度診療報酬改定について「少ない改定財源でもそれなりの評価ができた」との見解を示しており、満点ではないものの、現状から考えると妥当な結果だと判断しているようです。

このような環境の中、日本の経済成長とともにJAHISの成長・発展に寄与する為、総務会としてのJAHIS中期計画2021を以下の3つの方針で推進することと致しました。

1. 工業会の成長と健全な運営を行う為の会員数の確保
2. 会員サービスの充実や運営の効率化につながる各種システムやインフラ環境の見直し・整備（事務局との協業）
3. ブランド価値の向上に向けたJAHIS創立25周年記念イベントの企画・運営

具体的な施策としましては、

1. 新規会員を増やし、退会する会員を減らす為の課題を洗い出し、対応策を検討する
2. JAHIS運営の基盤となる各種システムやインフラ環境の改修を通して、会員並びに事務局運営に対し利便性の向上や活動の活性化を図る（事務局との協業）
3. 2019年に創立25周年を迎えるにあたって、記念イベントを通してJAHIS内外に情報発信を行いブランド価値を向上させる

これらの活動を通して、総務会としては今後も会員の皆様に、広くJAHISの価値のご提供ができればと考えております。

JAHIS会員各位の皆様の益々のご活躍を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

新年度の抱負

標準化推進部会 部会長
(キヤノンメディカルシステムズ株)

大沢 博之 Oosawa Hiroyuki



JAHIS会員の皆様におかれましては、平素より標準化推進にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。標準化推進部会の部会長として、新年度にあたり抱負を述べさせていただきます。

標準化の始まりは“度量衡”だと思われます。度は「長さ」、量は「体積」、衡は「質量」をそれぞれ表しています。物を量る、測る、計ることによって、人類は発展して来ました。建築では材料の度量衡にて様々な巨大な建造物が作られて来ましたが、人々の交流においては度量衡による物々交換に始まり貨幣という標準に換えて発展して来ました。現在は、物、貨幣の交換に加え、データの交換が不可欠になっております。そして、このデータ交換にはシステムとシステムを繋ぐことが必要で、それには標準としてのプロトコルが必要となります。標準化の歴史は言い換えると何かと何かを繋ぐ歴史であり、人類は標準化によって社会的無駄を排除しながら効率よく発展して来たのです。

昨今、色々なところで、“医療情報の標準化”が話題になっており、IoTによりモノとモノが何らかの標準を以って繋がります。

厚労省では、医療分野の情報化の推進について、医療情報システムの安全管理に関するガイドラインの整備や、情報システム間で情報連携を円滑に行うための医療情報の標準化、広域な医療情報連携を行うための実証事業等を実施しています。また、“2025年（平成37年）を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることが出来るよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進”しており、“ICT・AI等を活用した医療・介護のパラダイムシフトの実現を目指し、インフラの整備”を推進すると言っております。

このような取組みに対し、JAHISは業界のさらなる活性化を図り、会員の皆様が安心して安全に活用できる標準化を目指していききたいと思います。今年度も、地域包括ケアの高まり、「病院完結型」から「地域完結型」の医療への転換、医療・介護・健康の連携政策などの世の中の動向に合わせて、ヘルスケアITによる連携実現が重要であると考え、これを、効率的・効果的に実現するために、以下の4項目について重点的に取組み、標準化の推進を図ってまいります。

- (1) 行政・学会・関連団体等との連携
- (2) 医療機器ソフトウェア規制の在り方や運用について関連機関との協力・連携
- (3) 海外標準と日本の要件・状況との整合性の確保するための海外標準化団体との調整や日本からの標準化推進
- (4) 標準化を担う人材の確保・育成

今後とも、標準化の推進と普及活動を通じて、本会のますますの発展と、JAHIS会員の皆様への貢献に努力してまいりますので、何卒、会員の皆様のご支援の程、よろしくお願いいたします。

ご挨拶

医事コンピュータ部会 部会長
(PHC株)

高橋 祐一 Takahashi Yuichi



JAHIS会員の皆様におかれましては、平素より医事コンピュータ部会の運営に絶大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。医事コンピュータ部会の部会長として、新年度にあたり抱負を述べさせていただきます。

社会保障費の増大は今後も継続し、2025年には医療給付54兆円 介護給付20兆円にのぼると言われています。「健康・医療戦略推進本部」が設置され全閣僚参画の下、超高齢化社会においても持続可能な医療システムへの転換を目指し、医療のデジタル化/ネットワーク化の進展、人工知能の加速的進化、バイオ技術による新しい医療の創出などの技術環境は大きな役割を果たします。

こうした中、医事コンピュータ部会は、『効率的な医療の実現』に向けて、厚生労働省の各種事業への参画、及び中央社会保険医療協議会、MEDIS-DCなどへの委員派遣などの対外活動を通して深く関わってきました。

さらに、デンマークにおける医療保険制度・医療ICT化視察調査報告書や、診療報酬請求書等の記載要領の電子化に関する調査研究事業の報告書等については、関係団体から高い評価を得て確かな歩みを進めています。

今後ますますその活動の場は広がっていくものと考えています。

さて、2018年度の事業活動ですが、中期計画にのっとり、これまでの活動を継続しながら、以下の運営方針で推進する予定です。

- 1) 国のICT戦略の中で、ICT活用の目的を明確にしながら関係機関と連携を取り課題解決に取り組んでいく。
- 2) 医療／介護保険制度改正や診療／介護報酬改定等のスムーズな対応が実行できるよう、関係機関・団体との連携を強化する。
- 3) 成熟した医事コンピュータビジネスの活性化を図るために、新規市場動向や先進ICT適用状況等を調査し、行政等関係機関に提言を行う。また、会員のビジネス機会拡大に努めるとともに、情報発信、会員サービスの向上に努める。

さて、この4月の改定についてですが、診療報酬改定、介護報酬改定は連携の機能を高め、将来の社会環境を想定し、医療のあるべき姿に向かって仕組みづくりを実現していく、大きな改定内容になっていると考えます。

医事コンピュータ部会では、厚生労働省や関係機関・団体との協議・連携を図りながら、会員の皆様へのより積極的な情報提供に努め対応して参ります。今後も会員の皆様の発展に寄与できるよう、医事コンピュータ部会の各委員会が一丸となって取り組んで参りますので、引き続き皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新年度のご挨拶

医療システム部会 部会長
(株)日立製作所)

藤岡 宏一郎 Fujioka Koichiro



JAHIS会員の皆様におかれましては、平素から医療システム部会活動にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。新年度をスタートするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

政府の主導により、2020年までの5か年間を「集中取組期間」として、医療等分野におけるICT化を徹底的に推進する各種の施策が遂行されております。このような状況において医療システム部会は、従来から患者安全への寄与と医療への貢献を目的とした情報活用基盤の拡大を推進することを事業方針とし、今年度も以下の活動を継続的に行う事業計画としています。

- (1) 高品質な医療システム製品と付加価値サービスの提供
- (2) 医療情報標準化の策定と普及推進
- (3) セキュリティ基盤の整備
- (4) 品質安全管理とリスクマネジメントの強化

これらはいずれも医療等分野におけるICT化の推進・発展に寄与すべく活動しているものですが、その推進にあたり、JAHIS他部門のみならず関係団体との協力・連携が重要となってきています。

昨年度から関係団体と協力・協調して新たに取り組んだ活動の一例としまして、クリニカルパスの標準化等に関する電子カルテ委員会と関係学会との協議や、医療材料・医薬品のトレーサビリティに関する部門システム委員会と関係団体との協調活動などを実施しています。また検査システム委員会では、昨年5月に東京で開催されたIHE PaLM（Pathology and Laboratory Medicine：臨床検査・病理）の国際会議への協力などを通じて、従来からの国内及び国際関係団体との協調関係を継続するとともに、海外の標準化動向の調査と国内への展開を強化しています。このような状況で医療システム部会の精鋭メンバが横断的なJAHIS活動を担う場面は益々増えており、活動に参画して頂いている会員の方々に非常に感謝しております。今年度も電子処方箋実装ガイドの改定、厚生労働省の安全ガイドラインの改定、新たなテーマの検討（介護連携、データ利活用）にあたり、よりJAHIS他部門及び関係団体との協力・連携を深めて推進していきます。また、成果物や活動内容については、業務報告会やセミナー等でアピールして、会員の皆様の事業に貢献しJAHIS活動への更なる参画を促していき、継続的な組織活動と体制強化を進めていきます。

最後になりますが、会員各位ならびに関係者の方々の引き続きのご理解とご協力を賜わりますことをお願いして、挨拶に代えさせていただきます。

新年度のご挨拶

保健福祉システム部会 部会長
(株)NTTデータ

高橋 弘明 Takahashi Hiroaki



JAHIS会員の皆様には、平素より保健福祉システム部会の運営にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。新年度にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

さてわれわれを取り巻く環境ですが、2017年6月には「未来投資戦略2017」が閣議決定されました。5つの戦略分野が掲げられ、その筆頭に挙がっているのが「健康・医療・介護」になります。健康管理と病気・介護予防、自立支援に軸足を置いた、「新しい健康・医療・介護システム」を構築することが謳われています。また厚生労働省のデータヘルス改革においては、保健医療データプラットフォーム構想などが掲げられており、ネットワーク化やビックデータ活用の観点で、ますます推進されるものと思われます。特に本部会では「科学的介護の実現」に関わる事案、対応が多くなっており、対外活動などを通して積極的に関わっています。現在、当部会では地域医療システム委員会、健康支援システム委員会、そして福祉システム委員会を設置し、その中で適宜WGなどを立ち上げ、各種課題等に取り組んでいるところでありますが、更に加速させていく必要があると思っています。それらを踏まえ、当部会では今年度、以下の事業方針のもと取り組んでまいります。

- (1) 個人・患者単位で最適な健康管理・診療・ケアを提供するための基盤としての「全国保健医療情報ネットワーク」を活用した地域の保健・医療・福祉・介護の連携、施設間や多職種間での連携データの標準化・普及、PHR等の実現に向け、関係省庁事業への参加や行政機関、関係団体への積極的な提言を実施し、業界のビジネスの創出を図る。
- (2) 「保健医療データプラットフォーム」及び保健医療ビッグデータ活用推進に向け、引き続き関係機関・団体と連携し検討会等に委員を派遣する等、各種健診関連システムの普及やデータヘルス計画の効果的な実施に資する活動・提言を実施する。またヘルスソフトウェア、ビックデータ分析、PHRの活用等に関連した調査や提言を行い、健康情報活用ビジネスの創出・拡大を図る。
- (3) 現在検討が進められている新被保険者番号、オンライン資格確認等を活用した新たな保健医療サービスについて、関係機関と連携を図り、情報システム分野の専門家として効率的なシステム構想を提言していく。
- (4) JAHIS他部門の委員会等との連携による積極的な情報収集に基づく会員への情報提供、関係省庁・関係機関・学会への積極的な提言を実施する。

本部会で取り組む領域については、ICTの課題だけでなく社会的課題も多いため、実現にあたっては行政や他団体など関係機関との連携が前提となります。JAHIS内の各部会、各委員会と連携し、我が国の医療ICTの発展ならび会員の皆様の事業に寄与できるよう積極的に活動してまいりたいと思いますので、引き続き会員の皆様のご支援・ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

ご挨拶

事業推進部会 部長
(日本電気株)

青木 順 Aoki Jun



事業推進部部長を務めておりますNECの青木です。JAHIS会員の皆様には、事業推進部の運営に多大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて事業推進部の主たる活動は、教育事業と展示博覧会対応であります。2月20日定例理事会で承認された「中期計画2021」の事業推進部各委員会およびWGの取り組みについて以下に紹介します。

1. 事業企画委員会

中計期間では、昨年発行した書籍「医療情報システム入門四訂版」を2020年3月に改版する予定です。また業界動向を踏まえ、電子処方箋・CDA・オンライン診療、医療介護連携、データ利活用等、会員に広く影響する事案に対して新規セミナーを企画・実行していきます。

2. 教育事業委員会

定常的に実施している教育コース（医療情報システム入門コース、介護請求システム入門コース等）の開催とりまとめ、また昨年からスタートした旬な話題を情報提供する勉強会および要員育成のための勉強会の企画・実行を行ないます。現在はJAHIS事務所での開催が主ですが、遠地の方を考慮しサテライト受講やビデオ撮影によるWeb配信等の検討を行いたいと思います。

3. ホスピタルショウ委員会

毎年7月に東京ビッグサイトで開催される国際モダンホスピタルショウの対応を行ない、「JAHISの存在をアピール」「出展企業増加」「新規入会促進」を目的に活動していきます。中計期間には東京オリンピックパラリンピックがありますので、その対応も検討する必要があります。なお2019年はビックサイト、2020年は東京テレポート付近に仮設される展示会場で開催できる見込みと聞いています。

4. 日薬展示委員会

これも例年の行事ですが日本薬剤師会学術大会併設IT機器展示の出展とりまとめを行ないます。2018年は金沢、2019年は下関、2020年は札幌での開催が決まっており、出展とりまとめを受託できるよう、早期に県薬剤師会への働きかけを行なってまいります。

5. 展示博覧会検討WG

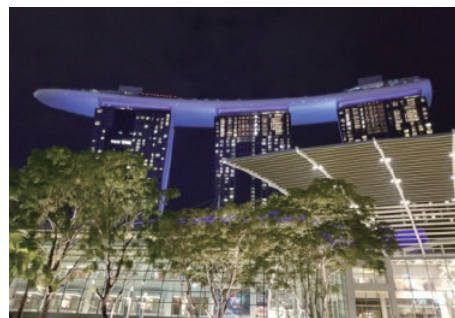
新しい話として、リードエグジビションジャパン社主催のメディカルジャパン医療ITソリューション展への出展依頼が来ており、JAHIS会員にとってメリットがあるかどうか検討していきます。

最後になりますが、事業推進部は「工業会参加価値の追求」を基本方針とし、JAHIS各部会の横断的な協力を得ながら活動を推進してまいります。皆様のご支援、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

HIMSS AsiaPac17 視察

運営会議 議長
(富士通株)

下邨 雅一 Shimomura Masakazu



1. はじめに

2017年9月11～14日にシンガポールのマリーナベイ・サンズのコンベンションセンターにて、30か国が参加する「HIMSS AsiaPac17」が開催された。今回のテーマは「TEAM-BASED CARE: Unifying Patients and Providers」(チームベースのケア: 患者とプロバイダーの一体化)である。6つの基調講演の他、Population Health、Collaborative Care、Data & Technology、Value-Based Care、IHIS、Nursingの各カテゴリでの講演があった。個別カテゴリの中では、地域住民の健康を管理するPHM (Population Health Management) の動向に注目した。



※ JAHIS や JAMI は Supporting Organizations として掲示されている

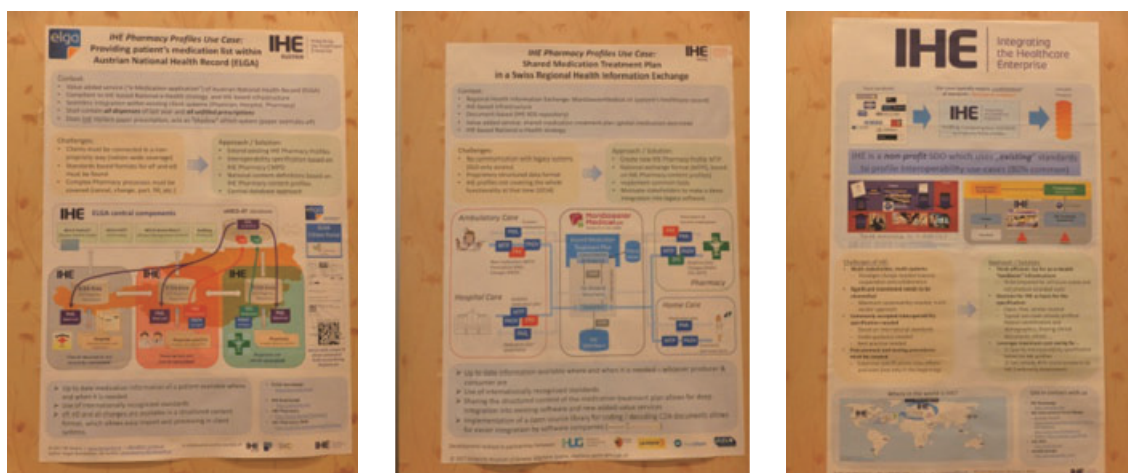
HIMSS (Healthcare Information and Management System Society) は1961年に米国で設立された非営利組織であり、現在個人会員64,000名以上、企業会員640社以上が参加するヘルスケアIT関連の世界最大の組織である。シカゴに本部を置き、ヨーロッパ（ベルリン）やアジア（シンガポール）等に支部を置いている。HIMSSとしては設立翌年の1962年に米国ボルチモアで第1回大会を開催しているが、アジア環太平洋地域を中心としたHIMSS AsiaPacが開催されたのは2007年シンガポールでの大会が最初であり、今年で11回目の開催となった。（シンガポールでは5回目、日本での開催はない）

2. プレカンファレンス(11日)

HIMSS AsiaPac17のプレカンファレンスとして、IHE Word Summitが11日に開催された。ご存じの通り、IHEは Integrating the Healthcare Enterprise の略で医療情報システムの相互接続性を推進する国際的なプロジェクトである。IHE では医療現場での統合プロファイル（業務シナリオ）の分析、DICOMやHL7等の標準規格を採用したテクニカルフレームワークの策定、コネクタソンでの接続テスト、普及推進活動、医療現場での評価というサイクルを繰り返して活動を行っている。



今回のサミットでは、IHEの現状と将来構想について、各国からの報告があった。まず、オープニングとして、IHE-InternationalのCo-ChairであるUSAのMichael McCoy氏から、IHEのVisionやMission、フレームワーク等の解説があり、専門家とベンダ、ユーザの参加が重要であることを強調した。次に、VIP キーノートスピーチとして、フィリピンのAsian Development BankのSusann Roth氏から、健康情報交換プロジェクトの事例紹介があった。デジタル健康情報プロジェクトを3つのパラダイムシフト（IT Health管理、パブリックとプライベートの協調、投資）に分け、投資継続の視点からのIHE効果の報告である。国際標準だけでなく、拡張仕様をリージョン標準と国別標準に分けて説明し、今後、フィリピンを中心にインド、インドネシア、ポリネシア各国等、南アジア一帯の医療ITの普及に向け、Conformity Assessment (CA) を含めた体制を2017年には整備すると述べた。



さらに、IHE-EUのCo-ChairであるオーストリアのJurgen Brandstatter氏から「モバイルヘルスとFHIR」について報告があった。mHealthにはeHealthが必要であり、PIXやPDQをmPIXやmPDQとして新たに定義していた。PCHA（Personal Connected Health Alliance）との協調も視野にいらしているとのこと。但し、この構想はまだ具体化していないかもしれない。また、IHE-Koreaは、現状の日本と比較すると、今はコネクタソンの検証範囲も限定しており、参加企業も少ないが、国からの支援もあり、今後、さらに強化していく印象を受けた。

その後、各国の「IHE Update」の一番手として、IHE-Japanの塩川氏より、IHE-Jの紹介と共に、Conformity Assessment（CA）の状況報告があった。日米欧にてISO17025（第三者機関による適合性認定規格）ベースでの試験検証環境の整備を国際的に推進していることを述べた。続いて、IHE-KoreaのSungkee Lee氏、IHE-Japanの木村教授、IHE-TaiwanのDer-Ming Liou氏、IHE-AustraliaのVincent McCauley氏、IHE-ChinaのTony Cui氏より各国の状況報告があった。IHE-Japanの木村教授からはIHE-Jコネクタソンの話題の他、SS-MIXの普及状況報告やnetPDIの事例報告があった。IHE-Taiwanからは、My Health Bankの話題提供、IHE-AustraliaからはHL7 FHIRの話題提供があった。今はIHE PCDにフォーカスを当てているとのこと。IHE-ChinaはPCHAとの協調等の話があったが、詳細は不明である。



午後からは、オーストラリアの Rachel De Sain 氏、マレーシアの Fazilah Shaik Allaudin 氏、Azrin Zubir 氏から、それぞれ「IHE と eHealth 戦略」について発表があった。オーストラリアの Herlinde Toth 氏や香港の Wing Nam Wong 氏、マレーシアの Fazilah Shaik Allaudin 氏からも同様な事例報告があった。IHE-マレーシアからは、MyHIX (Malaysia Health Information Exchange) が紹介された。サマリからはじめ、徐々にレポート類まで対象範囲を広げていくとのこと。AeHIN (Asia e-Health Information Network) の紹介もあった。

その後、オーストラリアの Alexander Schanner とオーストラリアの Trish Williams 氏からサクセスストーリーの報告があり、最後に、HIMSS の Vice-Chair Elect である Michael Nusbaum 氏をモデレータとして、IHE-International の Co-Chair である USA の Michael McCoy 氏、フィリピンの Asian Development Bank の Susann Roth 氏、HIMSS International の Executive Vice President である USA の Jeremy Bonfini 氏、HL7 の Chairperson であるシンガポールの Adam Chee 氏の 4 名によるパネルディスカッション（アジアにおける IHE 戦略構想）が行われ、閉会となった。



会場は定員 75 名程度の部屋で、こじんまりした感じではあったが、開会時は満席であり、参加者による活発な意見交換が行われた。これからはどの国も個人の健康医療データに着目した「mHealth」「eHealth」が中心になってきており、日本も世界のスピードに遅れてはならないと感じる。なお、日本からは発表者 2 名と安藤代表理事をはじめ、IHE-Japan 関係者が計 6 名参加しており、私も一部合流した。

3. メインカンファレンス(12 ～ 13 日)

HIMSS AsiaPac17 のメインカンファレンスの初日（12 日）は、まず初めに 10 歳の少女によるスピーチ（オープニングセレモニー）と HIMSS の President & CEO である Stephen Lieber 氏の歓迎挨拶があり、満員の会場が盛り上がったところで、主賓の情報通信省および保健省の Chee Hong Tat 国務次官が登壇され、開会演説を行った。



次に、最初の基調講演として、シンガポール保健省のCIOであるBruce Liang氏が「チームベースのケアを可能にする技術の役割」を報告した。ヘルスケアが複雑になるにつれて、患者ケアを提供するための機敏で多面的なアプローチ（チームベースのケア）にますます重点が置かれている。シンガポール政府は医療機関が保有する患者の医療情報について、必要な時に関係者が共有できる仕組みである、NEHR（National Electronic Health Records）を積極的に推進しているとの紹介があった。「国民1人に1つのカルテ（One Patient, One Health Record）」というビジョンを発表した後、直ちに公立病院間の電子カルテの共有を実現する等、着実に成果を上げていることをアピールしていた。HealthHub、National TeleHealth Platforms、CCMS（Care & Case Management System）等の事例紹介もあった。そして、「When ‘I’ is replaced by ‘we’, even ‘illness’ becomes ‘wellness’ .」というスライドを示し、演説の最後を締めた。

2番目の基調講演では、UKのGoogle DeepMind社のDominic King氏が「AI対応ケアへの進展」を報告した。DeepMindによるAIアプローチはdeep learningをさらに強化して学習させたものであり、科学誌「Nature」へも論文を投稿し、科学的な大きな進歩をもたらしているとアピールした。また、世界中のヘルスケアシステムで、①臨床的成果、②患者および臨床医の経験値向上、③コスト削減を目指しているものの、技術の未熟さとシステムの複雑さがあって大きな課題に直面しているが、これをAlphaGoの開発で有名なGoogle DeepMindの深層強化学習が解決するとした。①ニューラルネットワークの深い学習を通して生のインプットデータから直接知識を構築し、②試行錯誤による学習パラダイムを通じて最大の成果を達成すると宣言し、手術室でのAIアプリケーションが紹介された。ヘルスケアICTへのAIの活用には多くのデータを保有することが重要になるため、今後の動向が注目される。なお、午後のセッションではUSAのFatima Paruk氏から「ニューラルネットワークとAIによるブレイクスルー」の報告もあった。Microsoft Azureソリューションを活用したAllscripts 分析の概要説明がされ、コストとケアに関する予測モデルが示された。

翌日（13日）の基調講演では、シンガポールのSanjay Aurora氏が「サイバー脅威の新時代：自己学習と自己防衛ネットワークへの移行」を報告した。もはや従来のパターンマッチング型の防護型対策は

役に立たず、AIを活用したより免疫型（入り込んだものを免疫のような形で排除する方式）対策が必要であり、実際にそのサービスを展開していることが紹介された。また、IBM Asia PacificのFarhana Nakhoda氏とシンガポール国立眼科センターのDesmond Quek氏は「デジタル改革から認知的未来へ：新しいテクノロジーがより健康的な明日のために産業を変えていく方法」を報告した。眼科領域での医用画像へのAIアプローチは興味深い。さらに、オーストラリアのCharles Sevir氏による「ゲノム革命に向けて：次世代シーケンシングにおける大きなデータボトルネックへの取組み」の報告では、次世代DNAシーケンシング技術が革命を起こすとし、最新のコンピューティング技術とストレージ技術の概説があり、ゲノミクスIT環境としてEdico Genomeプラットフォームが紹介された。

4. 企業展示

12～13日は企業展示も併設され、45団体が出展していた。スポンサー企業（Diamond、Gold、Silver Sponsors）が中心で、会場の入口正面にIBM（Watson）のブースがあり、その両脇を米国の電子カルテベンダであるAllScriptとEpicがブースを構えていた。いずれもHIMSSのDiamond Sponsorsである。残念ながら、彼らは文字コード体系が異なる市場には興味ないようである。日系企業は富士通とサトーの2社のみであった。



5. 考察

全体を通じ、ビッグデータ、AI、IoT/IoE等をキーワードとした講演が多く行われ、各国の演者はヘルスケアICTに対する熱い思いを伝えていた。一部でスポンサーである企業の宣伝が見え隠れした発表もあったものの、ヘルスケアのアクセシビリティ（利用しやすさ）、クオリティ（質）、アフォードビリティ（経費の適切性）を実現するための工夫がされていた。まだ構想段階のものも多かったが、今後の進展が期待される。特にシンガポールでは、公立病院は全てHIMSS Analytics Electronic

Medical Record Model (EMRAM) のステージ6以上を達成している等、大きな飛躍を続けている。国のサポートによる SMARTヘルス構想も進められており、テレヘルス（遠隔医療）技術の実装も進んでいる。AsiaPacificにおけるシンガポールの位置付けが大きくなっているといえる。

今、日本では電子カルテや地域医療連携を推進しているが、グローバルな視点で考えると極めて狭い範囲での医療情報連携に留まっているのかもしれない。シンガポールを中心に、AsiaPacificの各国は、米国をベースに考えており、IHE、HL7、DICOM、LOINC、SNOMED等の国際的な標準規格（手順）や用語を使用することが当たり前であり、国同士での情報連携も視野に入っている。

2020年の東京オリンピックを控え、現在、外国人の来日は増加傾向にあり、世界各地との医療情報の共有は重要な課題である。日本独自の保険制度の影響もあるが、ユーザとベンダの相互理解（共通認識）と、標準技術を採用した医療情報基盤の構築とスピード感をもった普及施策が必要不可欠である。日本も他国と同様に、国際的な医療情報基盤のビジョンを描き、それに対し、効果的な国家資源の投入と、より具体的な中長期計画に基づいた確実な実行力が必要であろう。したがって、日本も世界中で重要な社会インフラ整備に貢献できるよう、最新標準技術の採用はもちろん、JAHISとしての官公庁（あるいは政治家）へのアプローチも急務と考える。

政府の「健康・医療戦略」や「未来投資戦略2017」では、ビッグデータやAIなどの技術を最大限活用し、個人・患者本位で、最適な健康管理と診療、自立支援に軸足を置いた介護など、「新しい健康・医療・介護システム」を構築することで、健康寿命の延伸と高齢者の自立した生活を実現すると宣言している。様々な社会課題を解決する「Society 5.0」の実現など、ICTを利活用して国民一人ひとりが「安全・安心・豊かさを実感できる社会」にJAHISも貢献していきたい。また、国連SDGs分野3（保健医療福祉）においても、医療情報の標準化は社会インフラ整備に貢献する。例えば、日本で開発した規格の国際標準化を進めることで、保健医療分野（地域連携、病病連携、病診連携、診療データの二次利用等）での国際連携および市場拡大が期待でき、経済効果も大きい。日本が世界に貢献できるよう、もっと技術力をアピールしていきたい。

最後になりましたが、IHE-Japanの立場で同行しご協力いただいた塩川康成氏にこの場をお借りして御礼申し上げます。

(ご参考) Pre-Conference IHE World Summit Program

PRE-CONFERENCE (IHE WORLD SUMMIT)
Monday, 11 September 2017

Registration and Coffee
Opening Keynote, Including IHE Essentials Dr. Michael McCoy, Co-Chair, IHE International, USA
VIP Keynote Speech: HIE from the Perspective of Investment and Sustainability Dr. Susann Roth, Senior Social Development Specialist, Sustainable Development and Climate Change Department, Asian Development Bank, Philippines
Thematic Block: "IHE in Production & Evolution"
IHE Futurezone: Mobile Health & FHIR Jürgen Brandstätter, Member, IHE International Board, Co-Chair, IHE Europe, Austria
Coffee Break
IHE Reality Zone: Conformity Assessment Yasunari Shiokawa, Senior Healthcare Information Technologist, Toshiba Medical Systems Corporation, Director, IHE Japan
IHE Update Out of: Korea Dr. Sungkee Lee, Professor, School of Computer Science and Engineering, Kyungpook National University, Co-Chair, IHE Korea
IHE Update Out of: Japan Dr. Michio Kimura, Professor and Director, Medical Informatics Dept., School of Medicine, Hamamatsu University, Chair, IHE Japan
IHE Update Out of: Taiwan Dr. Der-Ming Liou, Vice Superintendent, Kaohsiung Medical University Chung-Ho Memorial Hospital, Chairman, IHE Taiwan
IHE Update Out of: Australia Dr. Vincent McCauley, Chief Medical Officer, Emerging Systems, Telstra Health, Chair, IHE Australia
IHE Update Out of: China Tony Cui, CEO, HinaCom Software and Technology, Chair, IHE China
Networking Lunch
How Does IHE Contribute to Your eHealth Strategy: Australia Rachel De Sain, Executive General Manager, Innovation & Development, Australian Digital Health Agency, Australia
How Does IHE Contribute to Your eHealth Strategy: Malaysia "Dr. Fazilah Shaik Allaudin, Head, eHealth Planning Unit, Planning Division, Ministry of Health, Malaysia Dr. Azrin Zubir, Chief Executive Officer, Meridian Project Management Sdn Bhd (MPMSB), Malaysia"
How Does IHE Contribute to Your eHealth Strategy: Hong Kong / Vienna - IHE as the Escape from the "Early Adopter Trap" "Herlinde Toth, eHealth Coordinator, Vienna Hospital Provider, Austria Dr. Wing Nam Wong, Chief Manager (eHR), Consultant (Special Project), Hong Kong Hospital Authority, Hong Kong SAR"
How Does IHE Contribute to Your eHealth Strategy: AeHIN - IHE for Low Middle Income Countries Dr. Fazilah Shaik Allaudin, Head, eHealth Planning Unit, Planning Division, Ministry of Health, Malaysia
Coffee Break
Success Story: Sustainable Image Sharing on Province Level Dr. Alexander Schanner, Medical IT Services, Lower Austria Hospital Provider Holding, Austria
IHE & ISO: A Successful Team in Many Ways Professor Trish Williams, Cisco Chair and Professor of Digital Health Systems, Co-Director of Flinders Digital Health Research Centre, Flinders University, Australia
Panel Discussion: "IHE's Strategic Future in Asia" "Dr. Michael McCoy, Co-Chair, IHE International, USA Dr. Susann Roth, Senior Social Development Specialist, Sustainable Development and Climate Change Department, Asian Development Bank, Philippines Jeremy Bonfini, Executive Vice President, HIMSS International, USA Dr. Adam Chee FHIMSS, FACHI, FRSPH, Founder & Chief Advocacy Officer, Binary Healthcare, Chairperson, Health Level 7 (HL7), Singapore Moderator: Michael Nusbaum, Vice-Chair Elect, HIMSS Board of Directors"
Closing Dr. Michael McCoy, Co-Chair, IHE International, USA

(ご参考) Main-Conference Program

MAIN CONFERENCE DAY 1
Tuesday, 12 September 2017

Registration and Coffee		
Opening Ceremony		
Welcome Address Stephen Lieber, President & CEO, HIMSS, USA Harold 'Hal' Wolf III, (Incoming) President & CEO, HIMSS, USA		
Opening Address Mr. Chee Hong Tat, Senior Minister of State, Ministry of Health, Ministry of Communications and Information, Singapore		
Opening Keynote Session 1: Role of Technology in Enabling Team-Based Care Bruce Liang, CEO, Integrated Health Information Systems Pte Ltd, Chief Information Officer, Ministry of Health, Singapore		
Keynote Session 2: Progress Towards AI-Enabled Care Dr. Dominic King, Clinical Lead, Google DeepMind, United Kingdom		
Networking Coffee Break		
Population Health Track	IHiS Track	Nursing Track
Keynote Session P1: Making Health IT Patient Centered	IHiS Session 1: Opening Address	Keynote: Disrupting Nursing Practice in a Positive Way
	IHiS Session 2: Architecting for National Health IT / NEHR	Self Reported Informatics Competencies Among Nurses in Singapore: Preliminary Findings
		Nursing Informatics Roadmap and Competencies in the Philippines
Networking Lunch	Networking Lunch	Networking Lunch
Session P2: Healthcare 3.0 - New Paradigm Required for Health and Care Deli	IHiS Session 3: Empowering Care Team with Predictive Analy	Can Nurses Lead Community-Based and People-Centered Care? The Buurtzorg Home Care
Session P3: A Population Health Approach to a Technology Investment Programme	IHiS Session 4: Population Health Management - Digital Services via HealthHub and TeleHealth	Creating an Organizational Culture of Patient Safety: Nurses, Physicians and Allied Health Members
Session P4: Managing Healthcare Costs with Digital Health	IHiS Session 5: Technology Enablement for Pharmacy - Beyond Pharmacy to Patient	Nursing Innovation Showcase Challenge
Session P5: Breakthroughs with Neural Networks and AI - Predictive Modeling Comes Alive	IHiS Session 6: Healthcare Delivery from Hospital to Community - Health Marketplace	Clinical Decision Making and Patient Safety Through Informatics Using JETS (JurongHealth Escalation Trigger Score)
Networking Coffee Break	IHiS Session 7: Empowering Care Team Through SMART Sys	Networking Coffee Break
Session P6: Olympics Healthcare Interoperability (OHI) Initiative - Using the Games to Advance Global HIT Implementation	IHiS Session 8: Establishing Scalability & Resiliency in IT - HCloud	Data, Evidence-Based Practice and Clinical Decision Making in Clinical Care
	IHiS Session 9: Cybersecurity Trends Impacting Healthcare	Nurses' Role in Achieving Robust Cybersecurity in a Hospital Environment
HIMSS Analytics Special - EMRAM Criteria Update	IHiS Industry Briefing	Panel Discussion: Nursing in a Digital Age
(HIMSS AsiaPac Awards Dinner)		

(ご参考) Main-Conference Program

MAIN CONFERENCE DAY 2

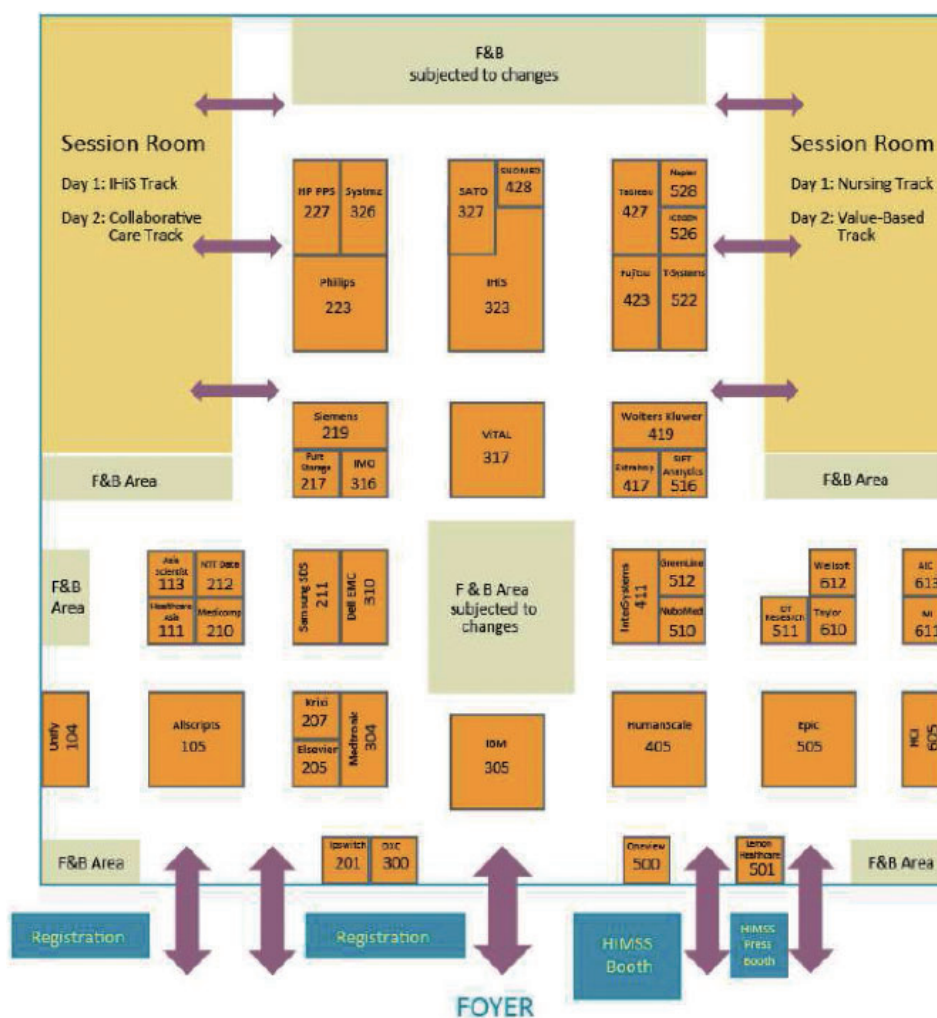
Wednesday, 13 September 2017

Registration and Coffee			
Keynote Session 3: The New Era of Cyber Threats: The Shift to Self-Learning and Self-Defending Networks Sanjay Aurora, Managing Director, Darktrace, Asia Pacific, Singapore			
Keynote Session 4: From Digital Reinvention to a Cognitive Future: How New Technologies Are Transforming the Industry for a Healthier Tomorrow "Farhana Nakhooda, Director, Healthcare & Social Services, IBM Asia Pacific, Singapore Dr. Desmond Quek MMed(Ophth), FRCS(Ed), FAMS, MBA, Consultant, General Cataract and Comprehensive Ophthalmology Department, Singapore National Eye Centre, Singapore"			
Networking Coffee Break			
Keynote Session 5: Improving Team-Based, Collaborative Care and Physician Efficiency Through an EHR Optimization Strategy Dr. Michael Pfeffer M.D., FACP, Assistant Vice Chancellor and CIO, UCLA Health Sciences, USA			
Keynote Session 6: The Move to Value-Based Healthcare Bob White, Senior Vice President & President, Asia Pacific, Medtronic, Singapore			
Networking Lunch			
	Data & Technology Track	Collaborative Care Track	Value-Based Care Track
	Session D1: Powering the Genomic Revolution: Tackling the Big Data Bottleneck in Next-Generation Sequencing	Session C1: Charting the Road to Clinical Effectiveness	Keynote Session V1: Case Studies in Value-Based Healthcare: From Theory to Implementation
	Session D2: Protect Your Hospital IT, Protect Your Patient	Session C2: The Siemens Healthineers Digital Ecosystem	
	Session D3: IoT-Based Healthcare Services and Incubation Project	Keynote Session C3: Establishing a Big Data Platform for Intelligent Connectivity Between Patients & Provider	Session V2: Reducing Clinical Variation Through Analytics
	Session D4: #PutData2Work		Session V3: Solving the Perennial Conundrum of Access, Cost & Quality in SingHealth Polyclinic - Value Care Through Disruptive Innovation
		Networking Coffee Break	Networking Coffee Break
	Networking Coffee Break	Session C4: Using Analytics to Support Integrated Care	Session V4: Value-Based Care = (Quality ÷ Cost) x Patient Engagement
	Keynote Session D5: How Healthy is Blockchain Technology?	Session C5: Healthcare Everywhere	Session V5: Panel Discussion: The Road to Value Based Healthcare - Achieving High Quality Care and Reducing Healthcare Wastages
	Session D6: If You Build It, They Will Come: Machine Learning Delivered Via an Ideal Organizational Structure	Session C6: Continuum of Care at Home: Navigating Complex Care Pathways from the Comfort of One's Home	
Session Transition			
Closing Keynote Session 7: Humanizing Health Care: Innovation as a Strategic Impera "Dr. Rasu Shrestha, Chief Innovation Officer, University of Pittsburgh Medical Center; Executive Vice President, UPMC Enterprises, University of Pittsburgh Medical Center, USA			
Closing Address and Lucky Draw			

(ご参考) Exhibitors & Floorplan

Organization	Organization	Organization
Agency For Integrated Care	IBM	Pure Storage
Allscripts	Icegan computing Pte Ltd	Qlik / SIFT Analytics
Asian Scientist	IHis	Samsung SDS
DELL EMC	IMO	SATO
DT Research, Inc.	InterSystems	Siemens Healthineers
DXC Technology	Ipswitch	SNOMED CT
Elsevier	Krix Care	Systmz
Epic	Lemon Healthcare Corporation	Tableau
ExtraHop Networks	Manorama Infosolutions	Taylor & Francis
Fujitsu	Medicomp Systems	Telemedicine in JAPAN
Greenline Synergy	Medtronic	T-System Singapore Pte Ltd
The HCI Group	Napier Healthcare Solutions	Unify
Charlton Media (Healthcare Asia)	NuboMed Technology	Vital
HP Inc.	OneView Healthcare	Wellsoft
Humanscale	Philips	Wolters Kluwer

Diamond Sponsors	Silver Sponsors
Gold Sponsors	EMRAM Sponsor etc.



HIMSS AsiaPac17 視察

国際標準化委員会 委員
(日本光電工業株)

田口 剛 Taguchi Go



1. はじめに

HIMSS AsiaPac17が、2017年9月11日から14日までの4日間、シンガポールのMarina Bay Sandsホテルに隣接するコンベンションセンターで開催されました。

HIMSS (Healthcare Information and Management System Society) は、「医療向上のため医療ITの最適普及をグローバルにリードする」ことを目的として、1961年に米国で設立された非営利団体です。個人会員64,000名以上、企業会員640社以上が参加する医療IT関連では世界最大の組織です。

毎年春に米国で開催される医療IT関連では世界最大規模の講演会・教育セッション・展示会の総合イベントをはじめとして、世界各地でイベントを開催しています。その一つであるアジア太平洋地域を対象としたHIMSS Asia Pacは、2007年にシンガポールで第1回が開催されて以降、香港、マレーシア、中国、韓国、オーストラリア、タイなどアジア各地で毎年開催されており、11年目の今回はシンガポールでの開催となりました。

シンガポールでは1980年代から国の政策として情報化推進に取り組んできており、医療分野においてもNational EHR (Electronic Health Record) を政府主導で計画的に進めています。今回のHIMSS Asia Pac17もシンガポール保健省の全面的な協力のもと、開催されました。

JAHISではグローバルの視点から、HIMSS Asia Pac視察を定点観測として実施してきており、本年も1名による調査を実施しました。

2. HIMSS AsiaPac17全体概要

今回のHIMSS Asia Pacのテーマは、“Team-Based Care: Unifying Patients and Providers”で、前回のテーマ“Advancing Digital and Patient-Centered Care”に「チーム」というキーワードが追加されています。限られたリソースで患者中心の医療を実現するためのチーム医療における人とテクノロジーの役割を主題として講演が行われました。

来場者数は約1,000名、出展企業数は45社と、前回（開催国タイ、来場者約1,500名、出展企業59社）に比べると減少していました。前々回（開催国シンガポール、来場者約1,700名、出展企業66社）と比べても減少傾向にあるようです。

9月12日、13日には、メイン・カンファレンスとして、基調講演と「IHiS」、「Nursing」、「Population Health」、「Collaborative Care」、「Data & Technology」、「Value Based Care」の6つの

カテゴリで講演が行われました。

またメイン・カンファレンス前日の9月11日にはプレ・カンファレンスとして、「IHE World Summit」、「Smart Nursing Competency Workshop」、「Cybersecurity Essentials for Healthcare Executives」の3つのプログラムが、メイン・カンファレンス翌日の9月14日にはポスト・カンファレンスとして、シンガポールの公立病院視察ツアーが開催されました。

3. メイン・カンファレンス

1) 基調講演

メイン・カンファレンスは、HIMSS President & CEOのHarold ‘Hal’ Wolf III氏による歓迎挨拶と、シンガポール保健省のChee Hong Tat上級国務大臣による開会演説で始まりました。開会演説でChee Hong Tat氏は、National EHRの概要と現状について述べ、シンガポールの医療情報化が着実に進んでいることを示しました。続いて、シンガポール保健省のCIOを務めるBruce Liang氏が、

「テクノロジーがチーム医療を促進する役割を果たす。時間と空間を超えたコラボレーションには、ITアーキテクチャ、ソリューションデザイン、スタンダード、ポリシーが重要である。」

と述べ、今後も政府主導で積極的に医療情報化を推進する姿勢を改めて示しました。

オープニングの基調講演では、Google社のDeepMind、IBM社のWatson、Darktrace社の自己学習防御システムといったAI技術に関するプレゼンテーションが行われ、多くの聴衆の関心を引き寄せていました。なかでもIBM社は、WatsonのNature language technologyを利用して、入院中に不安を感じている子供の話し相手をするアプリケーションという、UKのAlder Hey Children’s HospitalでのAI活用事例を紹介し、AIはチーム医療をサポートするだけでなく、チームの一員にもなり得ることを示しました。

クロージングの最終講演では、米国ピッツバーグ大学医療センターのRasu Shrestha医師が登壇し、「チーム医療の実現には、コミュニケーション、共感、自己主張、知的好奇心と創造力といったソフトスキル（人間力）が重要である。」

と述べ、“テクノロジー”で始まった今回のイベントを“人”で締めくくりました。

2) 一般演題

一般演題は、「IHIS」、「Nursing」、「Population Health」、「Collaborative Care」、「Data & Technology」、「Value Based Care」の6つのカテゴリに分かれ、計44件の発表が行われました。発表者を国別でみると、シンガポールが最も多く、米国、オーストラリアと続いていました。前回に続き、今回も日本からの講演はありませんでした。

(1) IHIS

IHIS社は、シンガポールの公的医療クラスターであるNational University Health System、National Healthcare Group、Singapore Health Servicesを有するMOH Holdingsに所属する医療IT企業です。本セッションではIHIS社による技術紹介の発表が行われました。シンガポー

ルでは、2017年初めにすべての公立病院で国家レベルの予測分析が開始されました。予測分析技術に関する発表のなかでIHIS社は、そのプラットフォームには同社のBusiness Research Analytic Insight Network (BRAIN) が使用されていると説明し、中央組織による計画と構想の可視化によって構想の二重化とリソースの浪費が避けられること、個人の診療記録から集計されるデータのセキュリティは保証されていること、データの一点集約と結合はさらに下流の解析の質を高められることなど、BRAINのメリットを挙げ、その技術をアピールしました。

(2) Nursing

Nursing セッションでは、シンガポール、フィリピン、オーストラリアなどの看護師による自医療機関での医療IT活用事例の発表が行われました。シンガポールのJurong Health Serviceは、英国で使用されているNational Early Warning Score (NEWS) にさらに項目を追加することで強化した独自の早期警告スコアJETSに関する発表を行い、質の高い医療を実現するためにはIT技術を積極的に上手く取り入れていくことの重要性を示しました。現在はモニタリングシステム上にJETSを表示しているだけだが、将来的にはモニタから自動的にcode blue teamに通知する仕組みを構築したいとのことでした。

(3) Population Health

米国の複数の医療機関や医師などの民間の医療統合組織で、アウトカムを重視するAdvocate Health Care (イリノイ州) による講演では、患者中心という概念は当然のように医療機関で使われるようになったものの、歴史的には医療は決して患者中心ではなく、EHRシステムをはじめとする医療ITは一時的なケアにフォーカスしていた。患者を一患者ではなく一個人として見られるようになるためには、医療ITの担う範囲を広げていくべき、との提言がありました。

(4) Value Based Care

Value-based healthcareを実現するためにはいくつかの重要なコンポーネントとして、「量から質へ移行するための戦略的な計画」、「成果やコストを評価し、意思決定を支援するためのシステム」、「定められた要求・時間・コスト内で提供される統一されたケア」、「時間と空間を超えたケアを提供するための統合ネットワーク」が挙げられました。

4. プレ・カンファレンスCybersecurity Essentials for Healthcare Executives

メイン・カンファレンス前日の9月11日には、医療機関におけるサイバーセキュリティに関するプログラムが開催され、シンガポール、フィリピン、タイ、中国を中心とした各国大手医療機関のCIO等が一堂に会し、米国から招いたプレゼンターによる講演、情報交換、議論が行われました。参加者は約30名で、その中にはシンガポールのNational University Health Systemの最高医療情報学責任者であり、今回のChairpersonを務めるGamaliel Tan氏や、フィリピンの医療機関Asian Hospital Medical Centerの医療情報学責任者であり、今回の開催メンバーであるJuan Antonio Javellana氏の姿もあり、盛り上がりを見せていました。本プログラムはプレ・カンファレンスでありながら、重要なテーマとし

て構成されていることが感じられました。

プログラムは、米国テキサス州の医療機関Cook Children's Health Care SystemのSenior Vice President兼CIOであるTheresa Meadow氏の講演を中心に行われました。Theresa Meadow氏は、2016年3月に米国HHS（保健福祉省）が、保健医療分野の組織横断的な取り組みとして立ち上げたHealth Care Industry Cybersecurity Task ForceのChairmanも務めており、米国医療機関のサイバーセキュリティでは重要なポジションにいる人物です。

内容は、サイバーセキュリティの基本的な考え方や、Cook Children's Health Care Systemの事例紹介を交えての、セキュリティプログラムを組織内に浸透させるための戦略とアプローチに関するものでした。セキュリティは組織全体で取り組むことが重要ですが、医療機関によってはIT部門の問題としか捉えていないケースも多く、それを払しょくするためには複数の活動を継続的に実施する草の根運動が必要であるとのことでした。その一方で、調査会社KLAS Enterprises社が米国の約200の医療機関に対して行った調査では、9割の医療機関がサイバーセキュリティに取り組んでいるというデータも紹介され、米国医療機関の意識の高さを実感しました。

一日全体を通して、Gameliel Tan氏とJuan Antonio Javellana氏がTheresa Meadow氏と熱心に議論する様子が見られました。特にフィリピンのAsian Hospital Medical CenterからはJavellana氏以外にもCFO等4名が参加しており、米国の重要人物、成功事例、そしてそのソリューションを取り入れようとする姿勢を見せていました。

これだけサイバーセキュリティに積極的に取り組むシンガポールの対策はどこまで進んでいるのかと、隣に居合わせたGameliel Tan氏に直接伺ったところ、

「院内でのUSBメモリの使用制限すら出来ていないのが現状です」

と、医療情報化に比べて「まだまだ」と言わざるを得ない実状を、苦笑いを交えながら語ってくれました。また同じ質問をJuan Antonio Javellana氏にもしたところ、

「当院では、ネットワーク状態の監視を行い、情報漏えい等の問題があればすぐに当局に連絡する体制を整備していますが、それだけでは十分ではなく、院内のサイバーセキュリティ対策の強化をさらに推進しなければなりません。その背景には、フィリピン政府が、欧米を目標として、サイバーセキュリティ対策の推進を強く要求していることがあります。」と話してくれました。

5. 企業展示

企業展示は、中央入口前にIBM Watsonが、左右入口前に電子カルテ企業AllScriptとEpicが展示していました。日本からの出展は、富士通、サトー、Telemedicine in JAPAN（総務省）の3社でした。

Epic社の担当者に同社のアジア地域に対する販売戦略を伺ったところ、アジア地域ではシンガポールやオーストラリアをターゲットとしており、日本、中国、韓国といったマルチバイト文字が母国語である国への展開は積極的ではないとのことでした。

またTableau社（ベンチャー企業）は、シンガポールは大手に押さえられていることから、アラブやインドをターゲットに市場展開していました。

6. おわりに

メイン・カンファレンスの1/3以上をシンガポール保健省、政府系企業、公立病院が占め、それぞれの立場から発表しており、シンガポールが最先端の医療情報化を実現し、同分野におけるアジアでの立場を強めていることが見て取れました。その一方で、同年5月に発生したランサムウェア WannaCry を使った世界規模のサイバー攻撃の事件に対して、タイムリーともいえるプログラムが構成されており、サイバーセキュリティが急務となっていることが分かりました。

今回は、初めてのHIMSS Asia Pac視察とあって、会員各位の期待に応えられる報告内容になっているか不安もありますが、本報告書が少しでも会員各位の事業発展の一助となることを切に願う次第です。

デンマークにおける医療保険制度・医療ICT化視察調査報告

2003年「韓国医療保険EDIシステム視察」から始まった医事コンピュータ部会主催の海外視察研修は、今回のデンマークにおける医療保険制度・医療ICT化状況視察調査で13回目を迎えた。

日本では、電子処方箋の運用やオンラインによる医療保険の資格確認の検討も始まり、医療分野におけるネットワークを活用したデータの共有および活用は、最も注力すべき分野である。そこで今回は、この分野に積極的に取り組み、実績をあげているデンマークを視察先として企画することとなった。

今回の視察では、デンマークの医療・介護制度を担っている各組織を訪問した。政府機関や病院、GPクリニック（かかりつけ医）、ITシステム関連団体、薬局協会、介護施設である。

健康高齢者省では、デンマークにおけるヘルスケアに関するICTの取り組みについて聞くことができた。eHealth戦略の一環として、各医療機関が23の電子カルテベンダを利用していたところを、1つの地域で1つのシステムに統一を図ることで、医療機関間の連携を進めるなど、積極的にICT化を推進していることが伺えた。結果として、GPのEMRの導入率が100%であったり、医療関連施設間でのデータ連携も100%近く導入されており、非常にICT化が進んでいることが確認できた。

また、国、地域、市町村の役割が明確であり、それぞれが権限をもってICT化に取り組んでいることが伺えた。

GPでは、電子カルテをはじめ、国内で共有している検査結果や処方データ、GPデータベース、医療情報ポータルなどの説明を受けた。GPにおいても様々なシステムを活用し、診療に活かしていることが伺えた。一方、国の推進の仕方には、現場を見ていないなどの不満があるようで、生の現場の声を聞くことができた。

薬局については、薬局協会で話を伺った。デンマークでは薬剤師協会会員にならないと、薬局を経営できないという仕組みとなっているのが、特徴的であった。ICT化については、政府のネットワークで連携できたり、電子処方箋が95%普及しているなど、かなり進んでいることが確認できた。

そして今回の視察では、はじめて介護関連施設を訪問した。まずは、コペンハーゲン市を訪問し、行政としての介護のICT化の取り組みを伺った。コペンハーゲン市では、全ての介護施設で共通に使用できる介護システムを導入しており、Mobile Firstをコンセプトにスマートフォンを5500台利用するなど、先進的な取り組みを伺うことができた。また、介護施設においては、タブレットを使用しシステムを活用していることを説明頂き、満足していることが確認できた。

今回の視察全体を通して、デンマークでは政府・行政主導でICT化の推進を図り、高い成果を上げて

いると感じた。国民性の違いなどもあるものの、日本における施策展開においても参考になる部分も多く、継続して動向を把握していきたいと考えている。

医事コンピュータ部会では、1社もしくは個人では実現困難な海外視察研修を企画・実施することにより、海外の医療情報分野に目を向け、情報収集と見識を深めるとともに、これらの経験を部会活動に活かし、継続的に保健医療分野のICT化の推進と市場創造・市場拡大の実現に向けて取り組んでいきたいと考えている。

最後に、医事コンピュータ部会の会員を中心とした20名・11社による視察団を結成することができ、視察の成功に至ったことに対し、参加者各位のご協力に感謝を申し上げたい。

なお、視察先等の概要については次ページ以降を、また、視察調査結果内容の詳細については、調査報告書として取り纏めたので、是非ご覧頂きたい。

1. 視察概要

1)日程

2017年9月11日（月）～16日（土） 4泊6日（機中1泊）

2)調査団

調査団一覧（順不同）（敬称略）

No	氏 名	会 社 名	代 表 団
1	高橋 祐一	パナソニック ヘルスケア株式会社	団 長
2	石井 雅弘	株式会社NTTデータ	副 団 長
3	森 昌彦	富士通株式会社	
4	西村 寿夫	パナソニック ヘルスケア株式会社	統括責任者
5	森野 國男	株式会社アキラックス	
6	常光 真司	株式会社 ソフトウェア・サービス	
7	荒井 良純	株式会社 ソフトウェア・サービス	
8	大畑 敦司	パナソニック ヘルスケア株式会社	
9	大橋 高志	日立メディカルコンピュータ株式会社	
10	朴 美洋	富士通株式会社	
11	川上 美里	株式会社 テクノプロジェクト	
12	田中 啓太	株式会社 テクノプロジェクト	
13	石木 康之	日立アイ・エヌ・エス・ソフトウェア株式会社	
14	豊田 英樹	日立アイ・エヌ・エス・ソフトウェア株式会社	
15	岩間 哲也	セコム医療システム株式会社	
16	高倉 一敏	株式会社日立製作所	
17	福島 裕	株式会社日立製作所	
18	西川 享宏	株式会社日立製作所	
19	樋口 昌夫	日本電気株式会社	
20	岸 和彦	一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会	全 体 管 理

※会社名は視察当時の名称で記載



3) デンマークの医療概況

(1) デンマークの医療

- ・ 国、5つの地域 (Region)、98の地方自治体 (Kommune) で運営
- ・ 国は、健康と高齢者のケアにおいて、規制および監督の責務
- ・ Region は、主に病院、かかりつけ医 (GP)、精神医学的ケアに責任
- ・ Kommune は、保健や高齢者のケアを担当
- ・ Region と Kommune は上下の関係ではなく、国の下に横並びの関係

医療・介護に関する行政組織



5つの Region



(2) 医療の提供体制

- ・ かかりつけ医(GP)は約3500人。1人に登録される住民は、平均約1600人
- ・ かかりつけ医は、複数で診療所を営み、事務室のような診療室を構えている
- ・ プライマリヘルスケアとしてカイロプラクティック、足病医、心理学者等も提供
- ・ 病院は、公立64、民間約70。入院日数の短期化や在宅介護の充実により、病床数は段階的に減らしている
- ・ 調剤薬局は438。健康省医薬局が数と場所を決めている

プライマリヘルスケアの概況

医療サービス提供機関	1人当たりの国民数(人)
GP (かかりつけ医)	1,611
専門医	6,301
歯科医、歯科衛生士	2,353
理学療法士	4,320
カイロプラクティック	20,935
足病医	6,124
心理学者	6,666

病床数の遷移

	2013	2014	2015	2016
病院ベッド数(床)	17,241	15,174	14,380	14,871
国民1000人あたりの 病院ベッド数 (床/1000人)	3.1	2.7	2.5	2.6

※2015年版

(3) 医療保険制度

- ・ 医療費は税金で賄われており診療については原則無料
- ・ GP (かかりつけ医) 制度が確立。患者は病院を選択できない
- ・ 医薬品代 (処方) や歯科治療等では一定の自己負担あり
- ・ 歯科診療や眼科、理学療法などでは任意に医師を選択することもできる
- ・ 患者が自由な医療サービスを受けるため、民間の医療保険も存在する
- ・ デンマークの医療保険制度は、2パターンの選択制
- ・ 民間医療保険はあるが、加入は低い状況

(4) 医療分野におけるICT化の現状

- ・ デンマークの電子カルテ普及率は、ほぼ100%
- ・ 国家のeHealth戦略は、「Making eHealth WORK」、
2013年から2017年の医療・介護領域におけるICT化のための国家戦略制定

(地域医療連携システム)

デンマークの地域医療連携システムは大きく5つの仕組みから成り立っている。

- ①システム全体のプラットフォーム『NSP (NATIONAL SERVICE PLATFORM)』
- ②医療従事者向けの情報共有サービス『MedCom』
- ③薬歴参照や電子処方箋を提供するサービス『FMK』

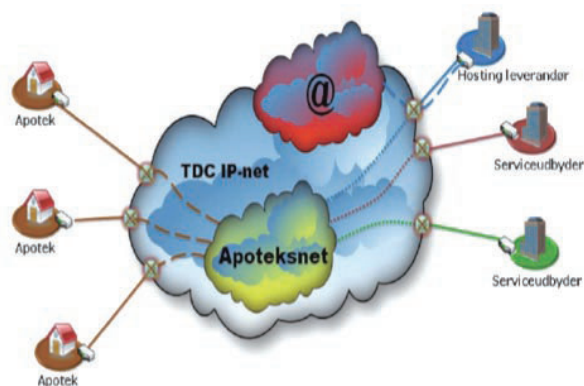
④患者向けサービス『Sundhed.dk』

⑤介護システム

IoT機器を活用した遠隔治療サービス「tele KOL（KOLとは慢性閉塞性肺疾患）」や糖尿病起因による褥瘡治療の実証が行われている。

（電子処方箋）

- ・デンマークにおける院外処方箋は99%が電子化
 - ・「Prescription Server(PS)」：薬局に電子処方箋送付
 - ・「Central Reimbursement Register(CTR)」：患者の自己負担額算出
 - ・「FMK」：薬局や他の医療施設から処方箋・薬歴参照
- （補足：PS・CTRは薬局協会、FMKは政府が管理）



（医療IDカード）

- ・1968年より個人識別番号制度CPR（Central Persons Registration）を導入
- ・デンマーク国民に対しては、出生届と同時期のタイミングで付番
- ・デンマークに3ヶ月以上滞在する外国人、移民者へも本人申請により同様に付番
- ・行政サービスはもちろん、銀行でのローン申請や、売買や賃貸借などの不動産契約、携帯電話契約などの民間サービスにおいても利用
- ・医療IDカードは、CPRNRが記載された健康保険証であり、自治体にて発行



医療IDカード

4) 視察先

(1) 訪問先：デンマーク国健康高齢者省

■日時：2017年9月12日（火）15:00～16:30

■面談者：Ms. Nanna Skovgaard, Mr. Flemming Christiansen

■訪問先概要

日本の厚生労働省とは多少異なる部分はあるが、日本の厚生労働省に該当する。健康やヘルスケアの管理目的に健康データやデジタルソリューションを作成する役割を担っている健康データ庁のスタッフにも同席して頂いた。



(2) 訪問先：シェラン コンサーンIT

■日付：2017年9月13日（水）9:00～10:30

■面談者：Lars Henrik Søfren, Michael Bjørn Kraft

■訪問先概要

シェラン地域の行政機関内でITを担当する組織である。地域の病院の医療情報システムの管理・運営を行っており、地域での医療の質向上・効率化を図るため、様々な取り組みを推進している。



(3) 訪問先：グローストルップ病院

■日付：2017年9月13日（火） 11:30 ～ 12:00

■訪問先概要

デンマークの首都地域に属するグローストルップに位置する病院で、2015年に Glostrup 病院と Rigshospitalet で合併し、Rigshospitalet Glostrup となった。眼科に特化しており、デンマーク内でも最大かつ高度に専門化した病院である。



(4) 訪問先：ハウヴェヴァイエエン 154 診療所

■日時：2017年9月13日（水） 13:00 ～ 15:30

■面談者： Dr. Jørgen Alf Nielsen

■訪問先概要

<高齢者センター>

ハウヴェヴァイエエン154診療所の近郊にあり、ショートステイのような場所。96名入居。GPが多くならないよう、3名で対応。

＜ハウヴェヴァイエン154 診療所＞

- ・ 1989年開業、2008年～現地
- ・ 3名の医師（GP）、1名の研修医、1名の看護師、2名の秘書
- ・ 2017年10月～移転予定。医師4名体制



（5）訪問先：デンマーク薬局協会

■日時：2017年9月13日（水）16:30～

■面談者： Henrik Bruun

■訪問先概要

全国の薬局を束ねる協会。213の協会会員、約5,600名が薬局に従事している。協会の運営活動に責任があり、政策的な活動は7名の薬剤師による委員によりなされる。



（6）訪問先：コペンハーゲン市

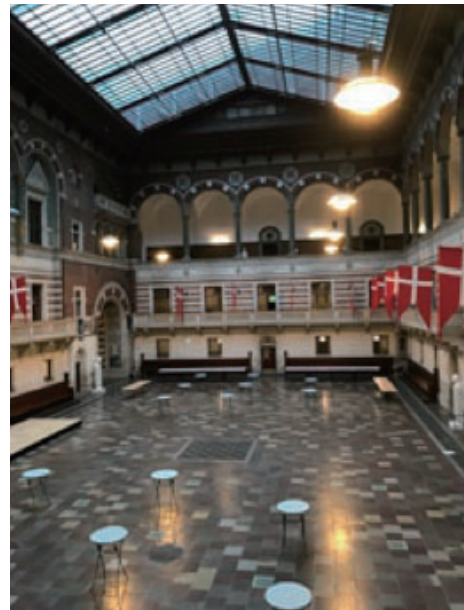
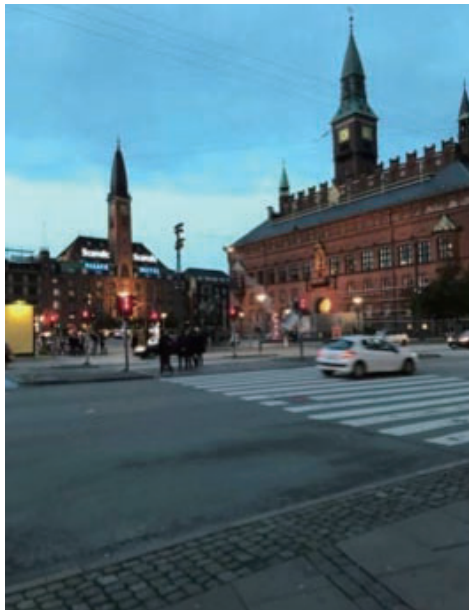
■日付：2017年9月14日（木）9:00～

■面談者： Johannes Leidesdorff-Madsen

■訪問先概要

[コペンハーゲン市の概要]

- ・人口：60万人、デンマークの首都
- ・全公務員数：約10万人
- ・内、ヘルスケア従事者：9,500人



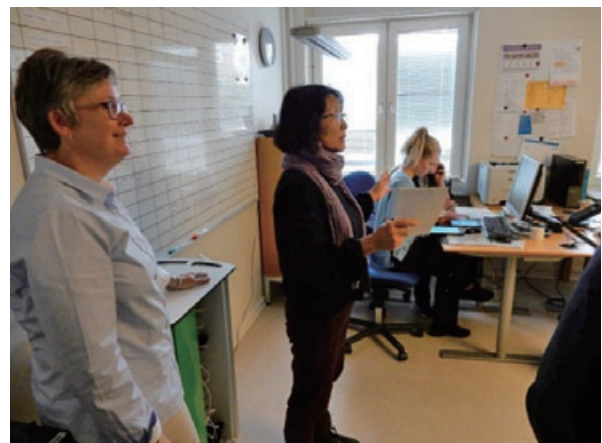
(7) 訪問先：ホンドヴェアカーフォエーニングス介護ホーム

■日付：2017年9月14日(木)11:30～

■面談者：Maj-Britt damm

■訪問先概要

コペンハーゲンの職人ギルドの基金 "Alderstrøst" によって設立された特別養護老人ホーム。施設の運営に伴う財源はコペンハーゲン市から出ており、施設職員は250名で運営している。ホームには、148の住居（そのうち19室はホスピス）。



第23回 JAHIS 講演会 & 賀詞交換会を開催しました

1月16日（火）にイイノホール&カンファレンスセンター（東京都千代田区内幸町）にて「第23回 JAHIS 講演会 & 賀詞交換会」を開催しました。当日は総勢227名の会員、来賓、関係者が集まり、年初に相応しい力強いスタートを切りました。

第一部のJAHIS講演会では、下邨運営会議議長より「2018年の年頭にあって」と題した講演を、また続く特別講演では「健康落語」という新しいジャンルを開拓した医師で落語家の立川らく朝師匠より、「ヘルシートークと健康落語」を2部構成にて熱演いただきました。

第二部の2018年賀詞交換会では、下邨運営会議議長の挨拶に続き、関係各省及び関係団体のご来賓より新年のご挨拶をいただきました。新規入会された会員様の紹介コーナーでは、出席された4社の方より自社の紹介および抱負を語っていただきました。

第1部 JAHIS 講演会

（1）開会挨拶

司会進行 大崎朋子

（2）「2018年の年頭にあって」

総務会会長 浅野正治

（3）特別講演「新春笑って健康笑って長生き」

運営会議議長 下邨雅一

ドクターらく朝の一笑健康 ～ヘルシートークと健康落語～

落語家 医学博士 笑い与健康学会理事、日本ペンクラブ会員

立川らく朝 師匠

（4）閉会挨拶

総務会副会長 西山喜重

第2部 賀詞交換会

（1）開会挨拶

司会進行 大崎朋子

（2）ご来賓挨拶

運営会議議長 下邨雅一

厚生労働省 大臣官房

参事官（情報化担当） 末岡隆則 様

経済産業省 商務情報政策局 ヘルスケア産業課

課長 西川和見 様

総務省 情報流通行政局 情報流通高度化推進室

室長 渋谷闘志彦 様

内閣官房 情報通信技術(IT)総合戦略室

参事官 山田栄子 様

一般社団法人日本医療情報学会

副代表理事 澤 智博 様

一般財団法人医療情報システム開発センター

理事長 山本隆一 様

（3）新規入会会員 ご紹介（4社）

(株)ティー・エム・アール・システムズ

ユニオンツール(株)

サンデンシステムエンジニアリング(株)

ソニー(株)

（4）中締め

事務局長 鈴木義規

（5）お開き



講演会 開会挨拶
浅野正治 総務会会長



講演「2018年の年頭にあって」
下邨雅一 運営会議議長



特別講演
「新春笑って健康笑って長生き」
立川らく朝 師匠



講演会 閉会挨拶
西山喜重 総務会副会長



下邨雅一 運営会議議長



厚生労働省
大臣官房参事官（情報化担当）
末岡隆則 様



経済産業省 商務情報政策局
ヘルスケア産業課長
西川和見 様



総務省 情報流通行政局
情報流通高度化推進室長
渋谷闘志彦 様



内閣官房
情報通信技術（IT）総合戦略室
参事官 山田栄子 様



一般社団法人日本医療情報学会
副代表理事 澤 智博 様



一般財団法人
医療情報システム開発センター
理事長 山本隆一 様



中締め
事務局長 鈴木義規

平成29年度 第26回医事コンピュータ部会 業務報告会・特別講演

平成29年度の医事コンピュータ部会業務報告会・特別講演は、46社89名の会員様のご参加をいただき、開催いたしました。

西村運営幹事の司会により、高橋部会長による平成29年度の部会活動及び平成30年度に向けた活動の紹介、7委員会の各委員長からは、平成29年度の委員会活動に係るトピックの報告、石井副部会長より、昨年9月に医事コン部会主催で実施しました、「デンマークにおける医療保険制度・医療ICT化視察調査」の報告が行われました。

特別講演では、診療報酬に係る図書、及び月刊誌等、多数執筆されている、長面川さより先生をお迎えし、『2018年度 診療・介護報酬同時改定の動向について』と題し、現在までの検討結果報告、及び最新情報ご講演をいただきました。

参加者の会員の皆様方は、部会報告から特別講演終了迄、メモをとりながら熱心に拝聴されました。

今年度も有意義な業務報告会の開催に向けて、企画・検討していきますので、よろしくお願い申し上げます。

◆開催日：平成29年12月15日（金）14：00～17：00 ◆場所：JAHIS第1～4会議室

プログラム（報告概要）

【部会業務報告】

1. 医事コンピュータ部会の活動状況

部会長挨拶	部会長	高橋 祐一	14：00～14：20
-------	-----	-------	-------------

2. 高額療養費制度の見直しへの対応

医科システム委員会	委員長	野村 英行	14：20～14：30
-----------	-----	-------	-------------

3. 歯科電子レセプト請求と標準化活動について

歯科システム委員会	委員長	西田 潔	14：30～14：40
-----------	-----	------	-------------

4. 電子版お薬手帳等について

調剤システム委員会	委員長	竹中 裕三	14：40～14：50
-----------	-----	-------	-------------

5. 平成30年度介護保険制度改正、報酬改定について

介護システム委員会	委員長	畠山 仁	14：50～15：00
-----------	-----	------	-------------

6. コメントマスタの変更について

マスタ委員会	委員長	大西 仁	15：00～15：10
--------	-----	------	-------------

7. 電子レセプトの活用等について（平成29年度）

電子レセプト委員会	委員長	西口 妙子	15：10～15：20
-----------	-----	-------	-------------

8. DPC制度の現状と今後の予定

DPC委員会	委員長	舌間 康幸	15：20～15：30
--------	-----	-------	-------------

9. デンマークにおける医療保険制度・医療ICT化視察調査報告

海外視察調査報告	副部会長	石井 雅弘	15：30～15：50
----------	------	-------	-------------

10. 【特別講演】2018年度 診療・介護報酬同時改定の動向について

(株) ウォームハーツ	代表取締役	長面川 さより様	16：00～17：00
-------------	-------	----------	-------------

◆報告会模様



司会の西村運営幹事



会場風景



高橋 部会長



野村 医科システム委員長



西田 歯科システム委員長



竹中 調剤システム委員長



畠山 介護システム委員長



大西 マスタ委員長



西口 電子レセプト委員長



舌間 DPC委員長



石井 副部会長



長面川 先生



会場風景



特別講演 質疑応答

2017年度 医療システム部会業務報告会 開催される

医療システム部会各委員会における今年度の事業活動内容と次年度の事業計画等を報告する医療システム部会業務報告会が、2018年2月2日（金）JAHIS会議室にて83名の参加を得て盛大裡に開催されました。

今年度の特別講演は、厚生労働省政策統括官付情報化担当参事官室 政策企画官の笹子宗一郎様より、「厚生労働省が進めるデータヘルス改革の取組状況」のテーマでご講演いただき、データヘルス改革の全体像から、実現を目指すサービスまで具体的にご説明いただき、貴重な時間を過ごすことができました。

以下に、当日のプログラムと発表模様を紹介します。

日時：2018年2月2日（金） 14:00～17:00

場所：JAHIS 第1～第4会議室

司会進行： 運営幹事 松尾 仁司

【プログラム】

- | | | |
|--------------|------|-------|
| 1. 部会長挨拶 | 副部会長 | 下邨 雅一 |
| 2. 部会全体活動報告 | 副部会長 | 湯澤 史佳 |
| 3. 電子カルテ委員会 | 委員長 | 井上 貴宏 |
| 4. 検査システム委員会 | 委員長 | 藤咲 喜丈 |
| 5. 部門システム委員会 | 委員長 | 大串 英明 |
| 6. セキュリティ委員会 | 副委員長 | 江崎 智 |
| 7. 相互運用性委員会 | 委員長 | 木村 雅彦 |
| 8. 特別講演 | | |

「厚生労働省が進めるデータヘルス改革の取組状況」

厚生労働省政策統括官付情報化担当参事官室 政策企画官 笹子宗一郎 様

- | | | |
|---------|------|-------|
| 9. 閉会挨拶 | 副部会長 | 亀井 正昭 |
|---------|------|-------|



松尾運営幹事



下邨副部長



湯澤副部長



井上委員長



藤咲委員長



大串委員長



江崎副委員長



木村委員長



厚生労働省政策統括官付
情報化担当参事官室
政策企画官 榎子宗一郎 様



亀井副部長



会場風景



会場風景

平成29年度 保健福祉システム部会 業務報告会開催

93名の参加者を迎え、平成29年度保健福祉システム部会の業務報告会を開催致しました。

部会長による今年度の部会活動内容報告の後、地域システム委員会、健康支援システム委員会、福祉システム委員会の委員長・副委員長からトピックスを織りまぜながら今年度の委員会活動内容について報告を行いました。

また特別講演として、厚生労働省保険局保険システム高度化推進室 室長 赤羽根直樹様より「医療ビッグデータの利活用等について（NDBを中心として）」と題して、最新の動向なども織り交ぜながらご講演いただきました。参加者は最近の最もホットな話題だけに熱心に聞き入っており、最後の質疑応答の時間帯には活発に質問を行っていました。

なお、毎年多くの会員の皆様からの参加の申し込みをいただいておりますので、少しでも多くの皆様に参加いただけるよう、今回初めての試みとして外部の会議室にて開催しました。

プログラムは以下の通りです。

●平成29年度保健福祉システム部会業務報告会プログラム

日 時：平成30年2月16日（金）14：00～17：30

場 所：〒105-0004 港区新橋2-12-15 田中田村町ビル

新橋会議室 会議するなら！ 新橋8F会議室8E

【業務報告会】

司会進行	運営幹事	松谷 正俊
1. 部会長挨拶	部会長	高橋 弘明
「部会活動状況」		
2. 健康支援システム委員会	副委員長	木内 邦光
「健康データ交換規約更新について」		
3. 地域医療システム委員会	委員長	田中 良樹
「地域医療ネットワークの標準化と各種動向」		
4. 福祉システム委員会	委員長	金本 昭彦
「介護・福祉・国保の制度改正について」		

【特別講演】

「医療ビッグデータの利活用等について（NDBを中心として）」

厚生労働省 保険局 保険システム高度化推進室

室長 赤羽根 直樹 様

【業務報告会の様子】



特別講演 赤羽根直樹 様



会場の様子



高橋弘明 部会長



木内邦光 副委員長



田中良樹 委員長



金本昭彦 委員長



松谷正俊 運営幹事



会場の様子

平成29年度標準化推進部会 業務報告会開催される

2018年2月9日（金）14時からJAHISに於いて、平成29年度標準化推進部会業務報告会を62名の参加を得て開催致しました。

八木運営幹事の司会進行で、大沢部会長による開会挨拶のあと、留奥副部会長の全体活動紹介、国内標準化委員会、国際標準化委員会、普及推進委員会、安全性・品質企画委員会の各委員長から平成29年度の活動状況、国内外の動向・トピックスについての報告がありました。

特別講演として、東北大学教授の吉澤誠先生より「『魔法の鏡』でスマートエイジング」と題してご講演いただき、ビデオカメラ映像から自律神経情報や血圧情報を抽出する『魔法の鏡』について分かり易くご解説いただきました。参加者は全員非常に興味深く拝聴し、予定の時間を超過して質疑応答を終了しました。

最後に大塚副部会長から閉会挨拶を行い盛会のうちに報告会を終了致しました。

なお、報告会に関する情報は、JAHISホームページの [活動と報告](#) > 業務報告会 > 標準化推進部会に掲示されていますのでご覧下さい。

■プログラム

司会進行	八木 春行	運営幹事
1. 標準化推進部会部会長挨拶	大沢 博之	部会長
2. 標準化推進部会全体活動紹介	留奥 修	副部会長
3. 医療情報標準化を取りまく動向について	佐々木 文夫	国内標準化委員長
4. 国際標準化活動について	岡田 真一	国際標準化委員長
5. 標準化の普及活動について	岩津 聖二	普及推進委員長
6. 患者安全に関する国際・国内動向について	岡田 真一	安全性・品質企画委員長
7. 【特別講演】 「『魔法の鏡』でスマートエイジング」	吉澤 誠 様	東北大学 教授 総長特別補佐（社会連携担当）
8. 閉会挨拶	大塚 正明	副部会長



特別講演
吉澤誠 先生



八木 運営幹事



大沢 部会長



岡田 国際標準化委員長
安全性・品質企画委員長



留奥 副部会長



佐々木 国内標準化委員長



岡田 国際標準化委員長
安全性・品質企画委員長



岩津 普及推進委員長



大塚 副部会長



会場風景

HL7 セミナー開催

JAHIS が団体会員 A である日本 HL7 協会主催の HL7 セミナーが開催されましたので、紹介いたします。詳細な内容、および、一部の発表資料は、つぎの URL にありますのでご覧ください。

日本 HL7 協会 HP <http://www.hl7.jp/>

なお、JAHIS 会員各社は日本 HL7 協会の事業法人会員と同等の権利を有しておりますので、日本 HL7 協会主催のセミナーに会員価格（無料）で参加できます。

第 63 回 HL7 セミナー 於：グランキューブ大阪 平成 29 年 11 月 20 日（月）13:15 ～ 14:45
テーマ：「臨床効果データベースの基盤と HL7 入門」

1. 慢性腎臓病臨床効果データベースの構築における SS-MIX2 の活用

J-CKD-DB 事業事務局（川崎医科大学 腎臓・高血圧内科学内） 岡田 美保子 先生

2. SS-MIX2 を用いた医療情報の利活用事例

九州大学病院 メディカル・インフォメーションセンター教授 中島 直樹 先生

3. HL7 の最新動向と SS-MIX2 の普及状況について

日本 HL7 協会会長 浜松医科大学教授 木村 通男 先生

(1) 日本薬剤師会学術大会 (2017/10)

事業推進部 日薬展示委員会 委員長
(PHC株)

田代 哲也



日薬展示委員会では、毎年秋の連休の2日間、開催地を変えて開催される「日本薬剤師会学術大会」（主催：公益社団法人日本薬剤師会、開催地の都道府県薬剤師会）の併設展示・IT機器コーナーの出展取りまとめ、小間割り～出展社説明会～小間設営～大会当日運営管理、集客活動等を行っております。

日本薬剤師会学術大会は、1968年（昭和43年）の第1回東京大会（日本薬剤師会創立75周年式典）に始まり、保険調剤はもとより、在宅医療、介護、地域医療など薬剤師が携わる業務の学術的な発表を行う場として、全国から多数の薬剤師が一同に参集する業界最大規模の学術大会です。それとともに、薬局向けシステムメーカーにとっては年間最大規模の製品展示、新製品発表の絶好の機会となっています。

今年度は節目の第50回、1968年から数えて6度目、1997年の第30回大会以来20年ぶりの東京開催となりました。第50回日本薬剤師会学術大会・東京大会は、「Pharmacists Practicing with Pride ～新たな時代に向けて、さらなる飛躍～」をメインテーマに、2017年10月8日（日）～9日（月・祝）に東京のJR有楽町駅に隣接する東京国際フォーラムと、隣のJR東京駅に隣接するJPタワー ホール&カンファレンスの2会場（IT機器展示は東京国際フォーラム）で開催されました。開会式には安倍総理が出席、「私どもの政権の成長戦略は、健康・医療分野はその柱となるテーマであります。技術革新を最大限活用しつつ、健康寿命を更に延伸し、健康長寿社会の実現を目指します。本年6月に策定した未来投資戦略2017においても、日本発の優れた医薬品・医療機器等の開発・事業化を掲げており、革新的な医薬品の早期実用化などに取り組んでまいります。」と祝辞を述べました。

（参考）首相官邸ホームページ

https://www.kantei.go.jp/jp/97_abe/actions/201710/08nichiyaku.html

来場登録者数は、ここ数年は7,000人前後で推移してきましたが、2016年の愛知大会の10,011人に続き、13,500人を記録、2年連続の大台突破となりました。IT機器展示会場（26社出展、スタンダードブース：62小間、フリーブース：420㎡）も終日賑わい、薬局のIT化への強い関心が感じられました。

そして来年度、第51回日本薬剤師会学術大会・石川大会として、「人として、薬剤師として。」をテーマに、2018年9月23日（日）～24日（月・祝）に石川県金沢市にて開催されます。大会会場は、石川県立音楽堂、ANAクラウンプラザホテル金沢、ホテル日航金沢、金沢市アートホールなど、JR

金沢駅周辺の施設。金沢までのアクセスは、北陸新幹線が開通し東京から2時間30分、大阪・名古屋からも同じく2時間30分と近い上、北陸の海の幸や温泉、兼六園などの観光地にも恵まれることから、多くの来場登録者が見込まれます。今回も例年通り、J A H I S が I T 機器展示コーナー全体の運営を請け負うべく、すでに石川県薬剤師会会長や開催事務局の皆様と早々に接触を開始しております。出展企業各社の皆様にご満足頂ける成果を出すべく取り組んでまいり所存ですので、来年度も何卒よろしくお願い申し上げます。

以下に、第51回日本薬剤師会学術大会・石川大会の概要を記します。

◆第51回日本薬剤師会学術大会・石川大会

- 1) 開催期間：2018年（平成30年）9月23日（日）～24日（月・祝）
- 2) 開催場所：石川県立音楽堂、ANAクラウンプラザホテル金沢、ホテル日航金沢、ホテル金沢、金沢市アートホール、もてなしドーム、他
- 3) メインテーマ：「人として、薬剤師として。」



また、2019年の日本薬剤師会学術大会もすでに決定していますので、下記に記します。

■第52回日本薬剤師会学術大会

会 期：2019年10月13日（日）～14日（月・祝）
開催地：山口県下関市

調査委員会活動状況と 精度向上への取り組みについて

調査委員会 副委員長
(富士通株)

岩村 浩正 Iwamura Hiromasa



2016年4月から調査委員会で活動させて頂いております、副委員長の岩村と申します。日頃は、大変お世話になっております。

調査委員会では、JAHIS会員会社様や各部会等のご協力を得ながら、以下の3つの調査を柱に調査方法、項目の検討、調査実施を行っております。

1. 「売上高調査」

売上高調査は、市場状況を把握することを目的に、1994年の創立以来継続して行われています。これは、JAHISの定款に定められたものとして実施され、調査は年2回実施しております。年間データとして集計され、考察を行った結果をJAHISホームページにて公表しております。

今年度は回答率向上と入力作業の省力化を目的に、これまでの「会員向けマニュアル」に追加して、「JAHIS売上高調査早わかりガイド」、「JAHIS売上高集計システム 利用者用運用業務 操作説明書（売上高がゼロ（0円）の会員向け）マニュアル」を作成、提供させていただきました。これらのドキュメントを会員様に提供できたことにより、売上高が0円の会員様も入力いただき、結果として売上高調査の回収件数が13件増加、回収率が昨年91%から今年92%（101%伸長）に増加し、調査精度を高めることができました。

年度（上期）	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
対象社	347	357	370	370	366	376
回収	314	321	328	317	332	345
回収率	91%	90%	89%	90%	91%	92%

< JAHIS 売上高調査早わかりガイド >

< 売上高がゼロ（0円）の会員向け マニュアル >



今後市場の動向や会員様からの要求等により、売上分類について継続性を図りながら、見直し等も、討議を重ねてまいります。

詳細につきましては、JAHIS アーカイブの「売上高調査」をご参照下さい。

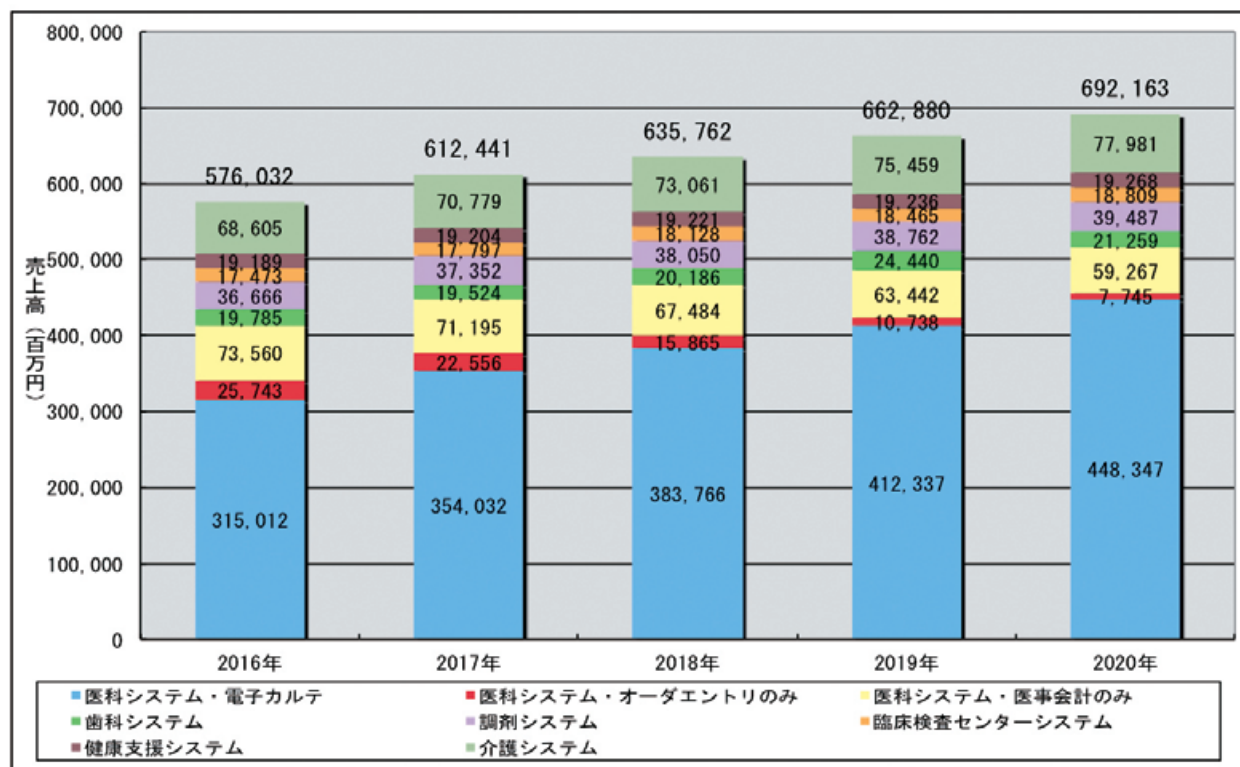
2. 「市場規模予測調査」

保健医療福祉分野における適切なICTのあり方について、国民や行政機関からより深い理解を得るだけでなく、会員企業のビジネス戦略策定にも資することを目的として、3年に1度の見直しを実施しております。今回は、2009年9月、2011年11月、2015年1月の報告に引き続き第4回目となり、今後数年間に渡る保健医療福祉情報システム全体の市場規模を予測しております。予測の結果、保健医療福祉情報システム全体の市場規模は、2016年度5,760億円、2017年度6,124億円、2018年度6,358億円、2019年度6,629億円、2020年度6,922億円になると予想され、年平均増加率は4.4%で、2016年から2020年の5年間で1.20倍になると予想されております。

今回、福祉（行政）システムについての調査を追加し致しましたが、精度の観点から参考資料としての掲載となりました。今回の調査により、福祉（行政）システムの市場規模が1千～2千億円程度と非常に大きな規模であることも判明しました。この取り組みにより、市場予測の精度が、より向上することが判明したことは、会員様への工業会参加価値の追求、更には会員満足度向上に大きく寄与するものであったと感じております。

一方次回の調査研究では、更に精度を上げるための工夫により、正確な市場予測が導ける様、一層の努力が必要と感じております。

<保健医療福祉情報システム全体の市場規模予測結果>

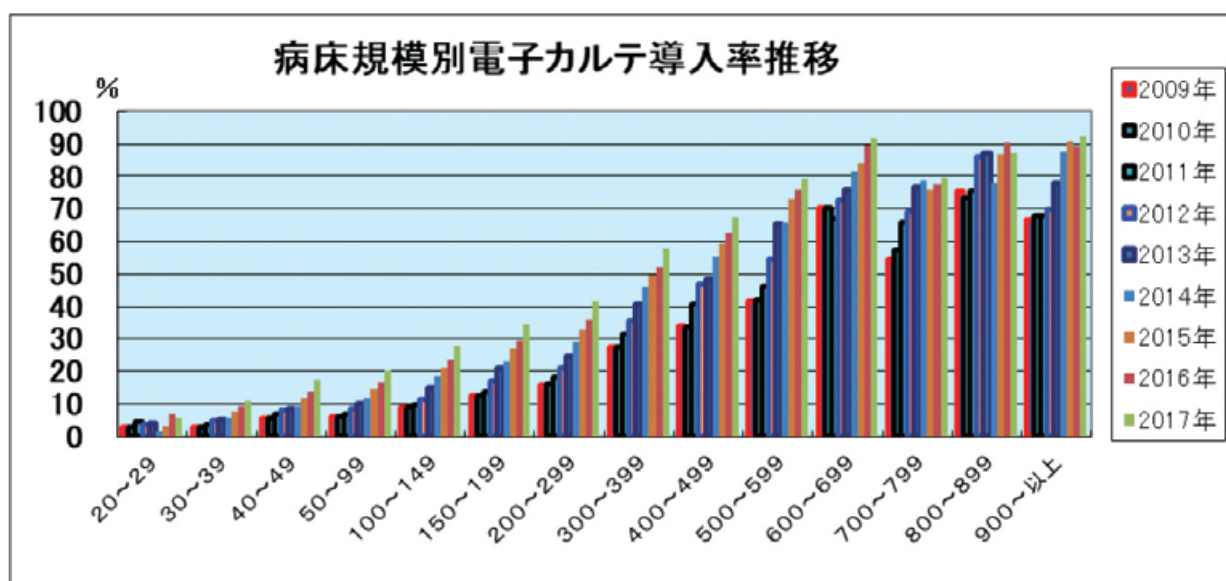


3. 「オーダーエントリ・電子カルテシステム 病院導入状況調査」

「月刊新医療」は、病院のオーダーエントリ、電子カルテシステムの導入実態を調査しており、JAHISは2004年より調査協力を行っています。昨年度は、JAHIS会員の協力のもと「月刊新医療」による導入調査が4月に実施され、その調査結果の詳細は「月刊新医療データブック・シリーズ「医療機器システム白書2018」(2017年10月発刊)に掲載されました。

調査委員会では、導入調査データ等をもとに、独自に国内のオーダーエントリ・電子カルテシステムの病院への導入状況について分析及び整理を行い、「オーダーエントリ・電子カルテシステム病院導入状況調査報告書[2017年(H29年)調査版]ーJAHIS医療情報システム導入調査結果ー」を発行致しました。

調査結果からは、近年50床から400床未満の病院で電子カルテシステムの普及が拡大しているのが顕著に表れております。



4. おわりに

上記の調査結果は、ご回答をいただいた会員各社様のご協力により成り立っています。今後とも、会員各社様のご理解とご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

また、新規調査項目のご要望がありましたら、ご遠慮なく調査委員会までご連絡ください。合わせてよろしくお願いいたします。

委員会メンバー（2018年3月現在）

委員長： 武田 芳郎（キヤノンメディカルシステムズ(株)）

副委員長： 岩村 浩正（富士通(株)）

委員： 犬飼 哲一（(株)NTT データ）

加治木 孝一（日本電気(株)）

谷 陽平（(株)日立製作所）

得能 稔（パナソニック ヘルスケア(株)）

長谷川 稔洋（富士通(株)）

戦略企画部長： 森本 正幸（富士通(株)）

運営幹事： 高橋 俊哉（富士通(株)）

松尾 仁司（(株)日立製作所）

小林 俊夫（日本アイ・ビー・エム(株)）

八木 春行（キヤノンメディカルシステムズ(株)）

事務局： 岩本 和則（JAHIS）

標準化推進部会 活動報告

普及推進委員会 副委員長

福間 衡治 Fukuma Koji



はじめに

「標準化の取組み団体がいろいろあってわからない」「標準化を定義するのは誰なの?」「標準化のメリットがわかりにくい」等、医療情報に携わる各システムベンダーの現場最前線にいる営業マンの声を聞くことから普及推進委員会の活動が開始され約8年が経過した。その間にパンフレットのVol.1～3を発行し、各システムベンダーに都度アンケートを実施し、得られた「声」を反映するかたちで改版・配布するというサイクルを年度単位で廻してきている。

これまでの経緯を簡単に振り返りながら、今年度の活動内容、及び、今後の活動について報告する。

経緯：パンフレットVol.1～3



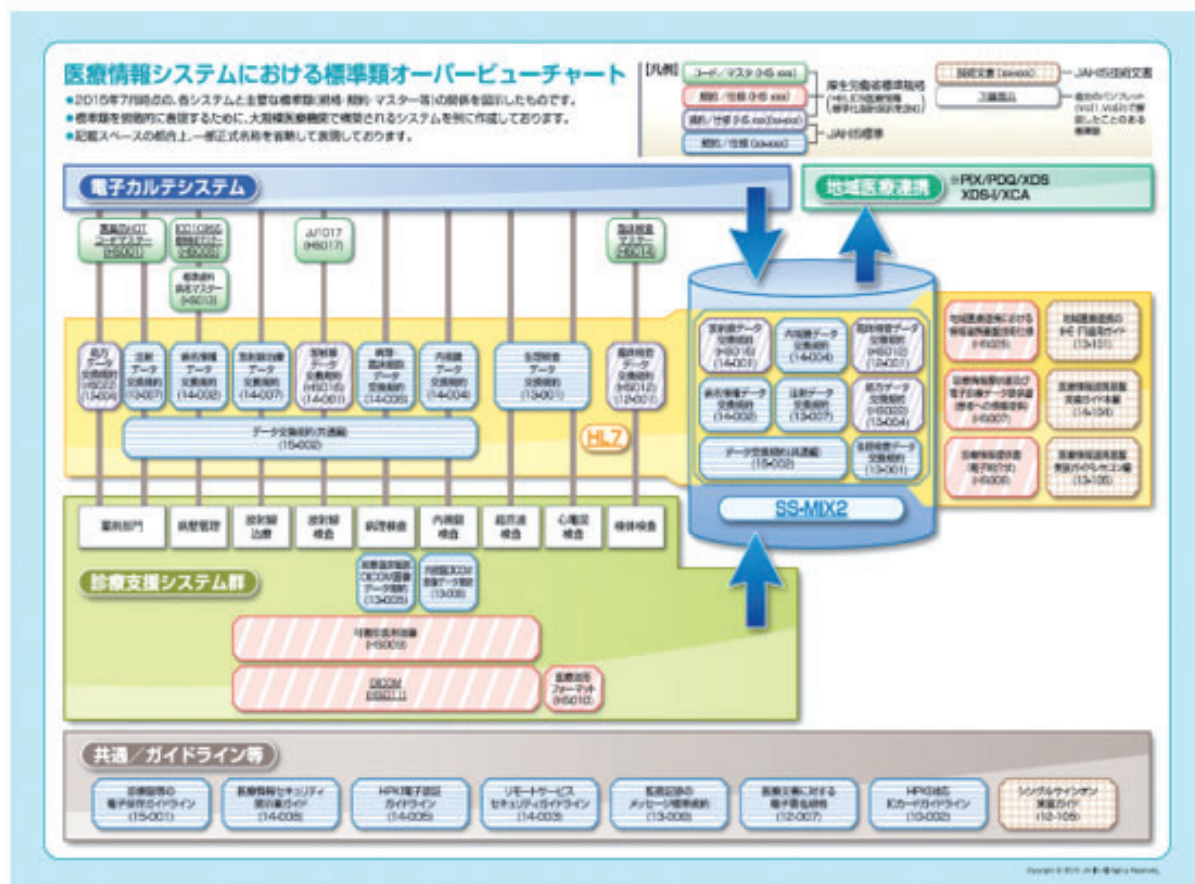


図-1：パンフレット Vol.1 ～ 3

パンフレットVol.1では、「これだけは知っておきたい医療情報システムの標準化関連用語Vol.1」を作成した。このパンフレットはアンケートにてスコアが著しく低かった若手営業マン向けに作成され、「厚生労働省標準規格」「HELICS」「JAHIS標準」「IHE-J」「SS-MIX」「MEDIS標準マスタ」について解説を載せることにした。また、いつでも見ることができるようパンフレットにミシン目を入れることにより、カード形式にして保管し、携帯できるように工夫した。

その結果、パンフレット配布後のアンケートでは、JAHIS標準類、SS-MIX、MEDISといった項目の理解度の若年層と中堅の点数差が縮んできた。若年層への普及が推進してきたと評価した。

パンフレットVol.2では、「標準類についてはまだ不足」「標準類の関連性が知りたい」「解説だけでなく課題なども提供してほしい」というアンケート結果に基づき、「HL7」「ICD-10」「DICOM」「医薬品HOTコードマスタ」「IHE統合プロファイル」「JLAC10」についての解説を掲載し、カード形式については継続することとした。

また、配布後のアンケートを工夫し、医療システム営業の経験年数と標準化に向けた活動に関する理解度、パンフレットに記載された各標準類について、パンフレットを読む前の認知度（1:全く知らない、2:単語を聞いたことがある、3:なんとなく知っている、4:知っていた、5:詳細や目的を語れるほ

ど知っていた)、パンフレットを読んだ後の理解度(1:全く理解できなかった、2:少ししか理解できなかった、3:なんとなく理解できた、4:理解できた、5:かなり理解できた)についてスコアで回答してもらうことにした。

各標準化関連用語解説による認知度の向上

パンフレットを読む前の認知度ロースコア(1or2)が、解説を読んだ後にどれだけ減少しているかを分析。

	HL7	ICD10	DICOM	HOT	IHE	JLAC10
認知度 ロースコア	17 (15.1%)	18 (16.0%)	11 (17.7%)	39 (34.5%)	49 (43.4%)	61 (54.0%)
理解度 ロースコア	2 (1.8%)	5 (4.4%)	1 (0.9%)	10 (8.9%)	12 (10.6%)	13 (11.5%)
改善率	15 (13.3%)	13 (11.6%)	10 (16.8%)	29 (25.6%)	37 (32.8%)	48 (42.5%)

図-2：アンケート結果

標準化関連用語解説による認知度の向上

パンフレットを読んだ後の理解度については、認知度に比較してかなりのハイスコアで向上しており、各用語の理解レベルも平準化している。

また、このパンフレットによる標準類の解説による認知度の向上について、理解度のロースコア人数が激減したということから認知度があがったと考えられる。HL7、ICD-10、DICOMはロースコアをほぼ撲滅できており、認知度が低かった残りの3項目についても大きな成果を挙げることが確認できた。

パンフレットVol.3では、用語の解説はVol.1、Vol.2を通じて一定の成果を得られたことから、さらに利用価値を高めるために「いかに活用すべきか」を、業務と標準類の関連性を示すこととした。Vol.1、Vol.2の改版と、Vol.3として「医療情報システムにおける標準類オーバービューチャート」をリリースした。

主要な標準類(規格・規約・マスタ等)を「厚生労働省標準規格(HELICS医療情報標準化指針採択含む)」と「JAHIS標準類」「JAHIS技術文書」に分類し理解しやすいように色分けし、電子カルテシステム、診療支援システム群、地域医療連携の各システムとの関係を図示した。

主要な標準類(規格・規約・マスタ等)を「厚生労働省標準規格(HELICS医療情報標準化指針採択含む)」と「JAHIS標準類」「JAHIS技術文書」に分類し理解しやすいように色分けし、電子カルテシステム、診療支援システム群、地域医療連携の各システムとの関係を図示した。

このパンフレットに対して、オーバービューチャート方式は「把握しやすい」(91%)と高い評価を得ることができた。一方で「2次元バーコードが使いにくい」、「もう少し見やすくしてほしい」等の貴重な意見を頂いた。

今年度の活動内容

前述の意見の他、「これまでVol.3まで出たけど、全部持ち歩くのは大変」「それぞれがまとまっていないので見にくい」等の意見を反映する形で、「医療情報システムの標準化について【集約版】」を作成・配布した。

1点目として、一覧性を確保するために、三つ折りのパンフレットとし関連項目が一度に見える形でレイアウトすることとした。

2点目として、二次元コードからの表示の仕方を工夫した。二次元コードでJAHISのサイトを経由し、各サイトへリンクすることで利便性を高めるようにした。

その他、更新に伴いあらためて有識者に監修を頂くこととした。

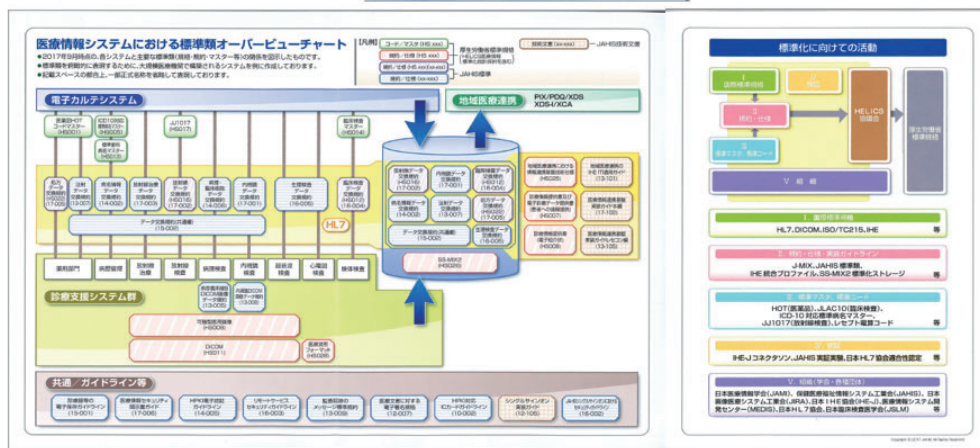


図-3：医療情報システムの標準化について【集約版】

今後の活動

集約版に関する、アンケート項目の検討は完了しており、アンケート結果を分析し定点観測を行い、対前年度の比較より浸透度を調査する等を実施していく。また、以下6点につき検討している。

- ① アンケート結果の解析
- ② 各標準規格の関連性・メリット等の明確化ツール類の作成。新たな普及推進ツールの企画（Webサイトの検討）
- ③ 理解度や関心度の低かった標準化分野をより理解し、普及させる施策の検討
- ④ 医療情報システム入門コース教材への反映
- ⑤ 標準化採用システムの導入による具体的な効果計測指標の検討
- ⑥ 各種セミナーの企画

上記活動を通じて、今後益々データの利活用が求められる中、標準化の更なる普及のためにどのようにすべきか検討を深め、委員会一同、微力ながら全力で推進していく所存です。

今後ともご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いいたします。

以上

DICOM 国際会議の日本開催

医療システム部会検査システム委員会
DICOM WG
(サクラファインテックジャパン株)

近藤 恵美 Kondo Megumi



2017年9月25日の週にJAHISでDICOM国際会議が開催されましたので、ご紹介いたします。

DICOMとはDigital Imaging and Communications in Medicineの頭文字をとったもので、「ダイコム」と読みます。医療におけるさまざまな画像検査の画像データや検査に必要とされる情報、画像の表示に関わるデータなどを伝送するために必要とされるデータ形式、データ長、メッセージ形式、メッセージ交換の仕方などを定めている標準規格です。JAHISは2007年3月に、DICOM規格を開発するDICOM Standards Committee (DSC) のメンバーとして正式に承認され、一般社団法人 日本画像医療システム工業会 (JIRA) と一緒に参加しています。

DSCは年に3回、米国・欧州・アジアで各1回開催されます。今回、アジア枠として日本で開催されることになり、JIRAとJAHISが共同して主催することになりました。DSCだけでなく、いくつかのワーキンググループ（以下、WGと呼ぶ。）も一緒に開催されました。さらに、元々開催予定のなかったWG-14 (Security) もCo-Chairの一人が来日しており、日本から説明したいことがあったため、急遽AdHocの委員会を開催することになり、セキュリティ委員会との意見交換が実現しました。まさにJAHIS開催のメリットが行かせた出来事だったと思います。また、会議が開催された週にIHEコネクタソンが実施されていたので、第66回IHE勉強会+コネクタソン見学会に参加し、勉強会では来日メンバーにDICOM関連の2つのテーマで講演を行っていただきました。

9月25日(月)	9:00 ~ 12:30	WG-10 (Strategic Advisory)
	13:30 ~ 17:00	WG-29 (Education, Communication and Outreach)
9月26日(火)	9:00 ~ 15:30	DSC (DICOM Standard Committee)
	16:00 ~ 17:00	WG-14 (Security) AdHoc
9月27日(水)	14:00 ~ 17:00	第66回IHE勉強会+コネクタソン見学会
9月28日(木)	9:00 ~ 12:30	WG-13 (Visible Light)
	13:30 ~ 17:00	WG-31 (Conformance)



会議風景

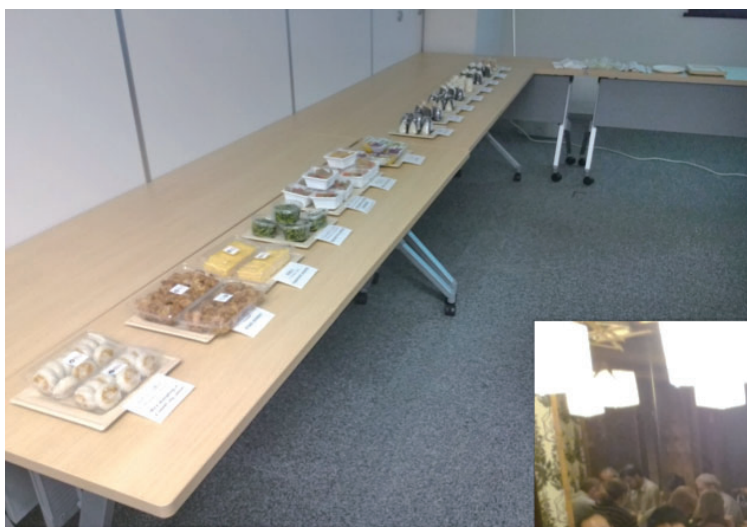
今回、欧米から12人が来日したほか、JIRAから3～4人、公益社団法人 日本放射線技術学会 (JSRT) から2～5人、JAHISから2～7人の参加がありました。具体的な参加者及び会議内容については、議事録が公開されていますので、そちらをご参照ください。

<https://www.dicomstandard.org/wgs/>



集合写真

会議だけでなく、昼食や懇親会のアレンジもしました。今回、来日メンバーに日本ならではの文化を味わってもらいたく、お昼にはサンドウィッチのほかにおにぎり、卵焼きやお新香を準備し、懇親会はお座敷（もちろん掘りごたつです！）にしました。想像以上に楽しんでいただいたようで、おにぎりはサンドウィッチよりも先に売れてなくなってしまいました。ちなみに梅干しは苦手な方が多かったようです。お座敷での懇親会も日本酒をさしつさされつ、楽しい時間を過ごしました。事前準備や当日対応にご協力いただいた事務局の皆様、ありがとうございました。



昼食のおにぎりや惣菜



懇親会風景

数年後にはまた日本で開催されることになると思います。ご興味のある方は、是非是非ご参加ください！

地域医療連携ネットワークの 動向と標準化への取り組み

地域医療システム委員会 委員長

田中 良樹 Tanaka Yoshiki



1. はじめに

病床機能分化、医療資源の偏在といった医療現場の課題を改善する一つの方法として、「地域医療連携ネットワーク」があげられています。地域医療連携ネットワークは、平成21年の「地域医療再生基金」をうけて急速に普及し始め、現在では270余りの地域医療連携ネットワークが構築・運営されています（日医総研ワーキングペーパー「ICTを利用した全国地域医療連携の概況（2016年度版）」より引用）。しかしながら再生基金のリプレース時期にあたる今、事業継続性が各地域医療ネットワークの重要テーマとなっており、標準化の普及によるマルチベンダー間連携のコスト削減も求められています。また安倍政権による「未来投資戦略2017」で示されるように国の動向も活発になってきました。今回は、その動向を整理しながら、本委員会での活動について紹介していきます。

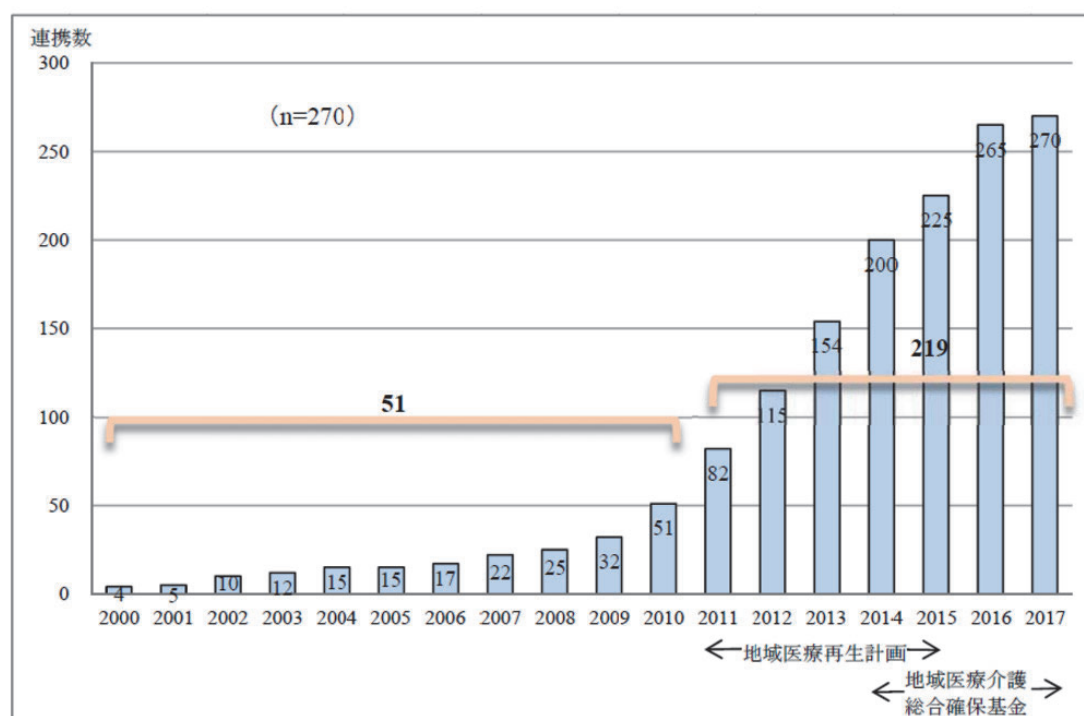


図 地域医療連携ネットワーク数の推移

出典元：日医総研ワーキングペーパー「ICTを利用した全国地域医療連携の概況（2016年度版）」

2. 国の動向

(1) 未来投資戦略2017

平成29年6月に閣議決定された「未来投資戦略2017」では、Society5.0の実現に向けて5つの戦略分野の筆頭として「健康寿命の延伸」が掲げられており、中期工程表「健康・医療・介護」では「医療等分野におけるIDの導入」「ビッグデータ活用等」「個人の医療・健康情報の統合的な活用」、「自立支援・重症化防止に向けた科学的介護の実現」などのテーマ毎に工程が示されています。それに沿う形で各種事業や施策が検討されており、その中でも地域医療システム委員会に関連するものについて、いくつか取り上げ紹介します。

(2) 総務省クラウド型EHR高度化補助事業

各地のEHRのシステム資産を有効活用しつつ、クラウド技術を活用してEHRを高度化することで、地域の医療機関、介護事業者等の双方向の情報連携や異なる地域の医療情報ネットワーク間の接続・情報連携、蓄積された診療情報の二次利用を可能とし、効果的な地域包括ケアや地域を越えた広域の医療情報連携の全国への普及展開へ寄与することを目的とし、2017年度全国16の地域で事業が実施されています。

この中で医療と包括ケアとの連携、広域の医療情報連携を実現するための中核的技術となっているのが「IHE-ITI」であり、JAHIS技術文書である「JAHIS IHE-ITIを用いた医療情報連携基盤実装ガイド本編（検討時Ver3.0）」をベースに事業における共通仕様が検討されました。JAHISでは地域医療連携IHE-ITI検討WGのメンバーを中心に、総務省クラウド型EHR高度化補助事業の共通仕様策定会議にオブザーバ参加し、各検討項目に対して、意見の提示を行っています。

(3) 科学的介護と介護現場のICT化推進施策とデータヘルス改革

2020年に向けて地域医療連携システムに大きな影響を与えると思われるものとして、「科学的介護と介護現場のICT化推進施策」と「データヘルス改革」をあげます。

前者は科学的に自立支援等の効果が裏付けられた介護を実現するために、科学的分析に必要なデータを新たに収集し、世界に例のないデータベースをゼロから構築するもので保険医療データプラットフォームに「診療・介護記録」「リハビリデータ」「要介護認定情報等」が収集されることが構想されています。

後者のデータヘルス改革では、「健康情報」「診療情報」「処方情報」を保険医療記録共有サービスに蓄積することが構想されており、2018年度夏を目途に工程表が提示される計画となっています。

地域医療システム委員会ではこれら動向に注視し、適切に対応を図っていく予定です。

3. 地域医療システム委員会の対応

上述の国の動向を踏まえて、以下の4つのWGにて各種課題に取り組んでいます。

(1) 医療介護連携WG

医療介護連携の標準化推進に向け、厚生労働省老健局・保険局、総務省などを中心にこれら部局との

協議や各種WGへの出席を行い、情報共有を図っています。平成29年度からは診療文書標準化WGとともに今後の医療介護連携における標準化の方向性の整理を行い、医療介護連携の標準化を推進しています。

(2) 地域医療連携 IHE-ITI 検討WG

IHE-ITIに関する情報収集、技術実装に関する課題を踏まえて「JAHIS IHE-ITIを用いた医療情報連携基盤実装ガイド本編」の改訂を中心に活動を行っています。今後、現在未検討の地域医療連携に必要なプロファイルについても検討を進めていきます。

(3) 地域医療連携 診療文書標準化WG

地域医療連携を行うにあたり、連携ニーズ高い診療文書の標準化を定めることを目的として活動を実施しました。SS-MIX2標準化ストレージに格納される情報以外で連携ニーズが高い文書として経過記録をJAHIS標準化し、また医療介護連携分野を中心に標準化すべき文書の整理を推進しています。

(4) 地域医療連携 画像検討WG

地域医療連携IHE-ITI検討WGと同様に、医療情報連携基盤実装ガイドのブラッシュアップをしていく中で、特に画像情報連携（XDS-I,XCA-I）について検討していきます。その際、レポートや放射線画像以外のMFER（Medical waveform Format Encoding Rules）波形画像などの画像の扱いも議論していく予定です。

4. まとめ

地域医療連携ネットワークは特に地域医療連携ネットワーク間を繋ぐ広域連携や、一つの地域医療連携ネットワーク内で介護、在宅、薬局等といった連携する施設の種類が増えると予想されます。更に地域包括ケアシステムへの対応や個人が自らの情報を管理して健康に活かせるPHRの構築、オンライン診療、看取りのICT化なども進むと思われます。また保険医療記録共有サービスのような全国レベルのプラットフォームの構築も具体化が進むと思われます。今後も国の施策の共有・提言、標準化への対応などJAHISの役割の重要性が増してきます。地域医療連携ネットワークを中心に検討を重ねている地域医療システム委員会は、平成30年度もさらに活発に活動して、医療業界を盛り上げていく次第です。

以上

教育事業「勉強会」について

教育事業委員会 委員長
(株)NTTデータ

三田村 一治 Mitamura Kazuharu



JAHIS会員の皆様には、平素より事業推進部教育事業の運営に大変ご協力いただき厚くお礼を申し上げます。事業推進部教育事業委員会の委員長を務めておりますNTTデータの三田村と申します。

教育事業委員会としては、「医療情報システム入門コース」等の教育事業を実施させていただいておりますが、昨年度はJAHIS会員様へのサービス向上を狙いとした新たな取り組みとして、4回にわたり「JAHIS勉強会」を実施させていただきました。「JAHIS勉強会」の様様をご報告させていただきます。

1. 「医療関係者対応ビジネスマナー」の活動状況

・開催日：7/28 午前 定員：30名 受講者：28名 場所：JAHIS会議室
7/28 午後 定員：30名 受講者：30名 場所：JAHIS会議室

* JAHIS会誌61号にてご報告しております。

2. 「データ利活用」の活動状況

・開催日：9/8 午後 定員：90名 受講者：96名 場所：JAHIS会議室

勉強会「データ利活用」に関しては、3名の著名な方にご講演いただきました。最初に厚生労働省保険システム高度化推進室長の赤羽根様より「ナショナルデータベース（NDB）におけるデータ利活用の現状と今後について」と題して、レセプト情報・特定健診等情報データベースの取り組み方や課題について、丁寧にご解説いただきました。次に独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）医療情報活用推進室調査役の山口様より「医療情報データベース（MID-NET）の本格稼働に向けた準備状況について」と題して、MID-NET事業の仕組みや進捗状況のご説明を伺いました。最後に独立行政法人国立病院機構本部情報システム統括部副部長の渡辺様より、「国立病院機構の診療情報集積基盤（NCDA）における、データ利活用の現状と今後」と題して、事業の背景や成果についてご講演いただきました。当勉強会は当初60名定員でしたが、非常に反響があり早々に定員が埋まってしまったため、定員を90名に増やすことといたしました。それでも定員オーバーしてしまい、最終的には申しこもうとされた方でも、席を確保できずお断りすることとなりました。会員の方にはご迷惑

をお掛けし大変申し訳なく思っております。データの活用に関する会員の方々の関心の高さを伺えるものとなっております。



「データ活用」勉強会の状況

3. 「改正個人情報保護法」の活動状況

・開催日：11/2 午後 定員：200名 受講者：178名 場所：新橋 航空会館

勉強会「改正個人情報保護法」では、2名の著名な方にご講演をいただきました。まず、個人情報保護委員会事務局参事官補佐の寺本様より「改正個人情報保護法を含む個人情報保護制度の概要について」と題して、個人情報保護法の概要や守るべきルールの解説をいただきました。その後、一般財団法人医療情報システム開発センター理事長の山本様より、「医療情報システムを取り巻く個人情報保護の現状と今後について」と題して、医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱い方や医療現場の対応の仕方、課題等のご講演をいただきました。当勉強会は、当初から90名定員のJAHIS会議室ではなく、200人定員の外部の大きめの場所を確保することで対応いたしました。こちらも最終的にはほぼ埋まっており、重要なテーマとして、個人情報保護に関する関心の高さが伺えます。



「改正個人情報保護法」勉強会の状況

4. 「先端技術」の活動状況

・開催日：12/7 午後 定員：90名 受講者：88名 場所：JAHIS会議室

勉強会「先端技術」では、まず、株式会社日本経済新聞社編集委員の関口様より、「AI、IoTが促すデジタルトランスフォーメーション」と題して、AIやIoTの活用事例を新聞記事等を交えながら解説をいただきました。次に日本アイ・ビー・エム株式会社インダストリー・ソリューションズ事業開発ヘルスケア分野スペシャリストBDEの小林様より、「医療分野における最新AI技術の活用について」と題して、医療分野におけるAIの活用の考え方や適用事例、課題を整理してご講演をいただきました。最後に富士フィルム株式会社メディカルシステム事業部再生医療事業部の牧野様より、「再生医療の最前線と産業化の要諦」と題して、再生医療の定義や再生医療先端技術の紹介、再生医療における規制改革や標準化の話題を解説いただきました。



「先端技術」勉強会の状況



「先端技術」勉強会の状況

どの勉強会也非常に好評で、ほぼ満席となっております。教育事業委員会では、昨年度から各会員会社殿の教育窓口の方をご登録いただき、教育コースや勉強会の案内が教育窓口の方に直接届くようにいたしました。この甲斐あって、勉強会では教育窓口を設定させていただいた会員会社殿からの申込が全体の8割となっております。また、講義後のアンケートにおいても、どの講義においても役に立つと回答いただいた割合が9割を超えており、非常に有意義であったと評価をいただいております。今年度もJAHIS勉強会として3つ程度のテーマで開催を予定しております。こちらの勉強会もJAHISホームページ等で順次募集をさせていただきます。JAHIS会員の方の少しでも手助けとなれば幸いです。

JAHIS会員の方のサービス向上のために、教育事業委員会は活動しております。教育という立場で、少しでも会員の方の役に立つ情報を提供できるように努力して参りますので今後ともご協力の程、よろしくお願いいたします。

運営状況報告

会誌第61号（2017年10月発行）から本誌発行までに開催された理事会・運営会議・総務会の会議内容について審議事項を中心にご紹介いたします。JAHISの活動方針が決まる経緯をご理解いただくとともに、戦略企画部の運営幹事を始めとするメンバーが、さまざまなJAHIS活動の重責を担っている様子を読み取っていただければ幸いです。

また、併せて、現在（執筆時点）の会員数状況をご報告いたします。

■ 2017年度会員数状況(2018年3月1日現在)

会員種別	A	B	C	D	E	F	計
*2017年8月1日現在	7	4	8	21	126	209	375
入会					3	5	8
退会					-1	-1	-2
種別変更					1	-1	
2018年3月1日現在	7	4	8	21	129	212	381

*（注）前年度末退会と4月1日付け種別変更を反映し、4月1日付け入会は含まない

理事会

2017年度第2回定例理事会、第60回～第63回の書面理事会が開催されました。それぞれの審議結果は次のとおりです。

2017年度第2回定例理事会

開催日時：2018年2月20日（火） 午前9時50分から10時50分まで

場所：JAHIS事務所 第1、第2、第3会議室

出席：理事 10名 監事 2名

議事

第1号議案 中期計画2021策定の件

承認

報告事項1 2017年度 第1・2・3四半期の活動状況報告

報告事項2 次期体制の状況報告

第60回書面理事会（2017年9月15日開催）

議案：第1号議案 入会承認の件

承認

(株)エクセル・クリエイツ

F会員

紹介

日立メディカルコンピュータ(株)

ソニー(株)

F会員

紹介

(株)ソニーネットワークコミュニケーションズ(株)

第61回書面理事会（2017年10月16日開催）

議案：第1号議案 入会承認の件

承認

みらい工房(株)

F会員

紹介

MIS九州(株)（当時）

(株)ジャパンコミュニケーション

E会員

紹介

(株)社会保険研究所

第62回書面理事会（2017年12月14日開催）

議案：第1号議案 入会承認の件

承認

(株)LITALICO

F会員

紹介

(株)アール・シー・エス

(株)エイティエイト

E会員

紹介

日本アイ・ビー・エム(株)

(株)DNP アイディーシステム

E会員

紹介

大日本印刷(株)

第63回書面理事会（2018年1月18日開催）

議案：第1号議案 入会承認の件

承認

(株)ブルーオーシャンシステム

F会員

紹介

(株)ワイズマン

以上

運営会議

2017年度 第5回運営会議議事録

＜日時＞：2017年8月23日（水）15:00～17:15

＜場所＞：JAHIS第1～第3会議室

（1）対外活動申請

- ①「第12回医療の質・安全学会学術大会での講演」については、11月26日（日）、幕張メッセ国際会議場）において、「電子カルテシステム等での医療の質・安全対策」の演者として、電子カルテ委員会の井上委員長、岡副委員長、新垣副委員長を派遣することが承認された。
- ②「日本医療情報学会 医療情報総合戦略研究部会 匿名加工プロセスWGへのオブザーバ派遣」については、オブザーバとして、セキュリティ委員会の茗原委員長と医療システム部会の下邨副部会長を派遣することが承認された。
- ③「次世代医療ICT基盤協議会 医療情報取扱制度調整WG 医療情報利活用推進サブWGへのオブザーバ派遣」については、オブザーバとして、医療システム部会の松尾運営幹事を派遣することが承認された。

（2）「Health2.0 11th Annual Conference」（10月1日～4日、米国サンタクララで開催）への参加費について、在日アメリカ大使館の窓口へ直接申し込めば適用される割引情報をJAHIS会員へ広報することが承認された。

（3）戦略企画部配下の委員会へのA・B会員以外の参加について、戦略企画部規則（JAHIS規則100号）を改訂することが承認された。

（4）「第12回医療の質・安全学会学術大会 大会長からの協力依頼」については、JAHIS手提げ紙袋を提供することが承認された。

（5）事業推進部副部長の交代について、鈴木副部会長の辞任に伴い、後任を堤和弘氏（コニカミノルタ）とする推薦があり、候補者として承認された。正式には会長が委嘱する。

（6）電子投票結果について8/2～8/7に実施した電子投票結果の報告があった。

- ①「ASP・SaaS・クラウド事業者が医療情報を取り扱う際の安全管理に関する調査研究検討会への構成員派遣の件」（医療システム部会）、（結果）構成員総数43名中、出席者42名。出席者全員の賛成で承認。

2017年度 第6回運営会議議事録

＜日時＞：2017年9月19日（火）15:00～17:00

＜場所＞：JAHIS第1～第3会議室

（1）対外活動申請

- ①「三菱電機㈱主催 三菱電機展示ルームセミナー講師派遣」については、11月22日（水）、グランキューブ大阪において、「医療情報連携ネットワークにおける標準化について」の演者として、事業企画推進室の吉村室長を派遣することが承認された。
- ②「第37回医療情報学連合大会チュートリアルHELICS枠での講演」については、11月20日

- (月)、グランキューブ大阪において、「JAHISにおける標準化活動」の演者として、国内標準化委員会の佐々木委員長を派遣することが承認された。
- (2) 中期計画2021及び2018年度事業計画の策定に向け、各部門へ具体的な計画の作成を依頼することが承認された。
- (3) 総務会副会長の交代については、藤澤副部会長の辞任に伴い、後任を柴健一郎氏（NTTデータ）とする推薦があり、候補者として承認された。正式には会長が委嘱する。

2017年度 第7回運営会議議事録

<日時>：2017年10月17日（火）15:00～18:00

<場所>：JAHIS第1～第3会議室

(1) 対外活動申請

- ①「JAMI医療情報技師育成部会主催 生涯研修セミナーへの講師派遣」については、1月27日（金）、東京医科大学もしくは国立がん研究センターにおいて、「医事会計システムの総括的な解説および標準化動向やデータ活用」の演者として、電子レセプト委員会の西口委員長を派遣することが承認された。
 - ②「第37回医療情報学連合大会 共同企画8（日本クリニカルパス学会）への講師派遣」については、11月23日（木）、グランキューブ大阪において、「JAHISの標準化活動や取り組み等」の演者として、電子カルテ委員会の井上委員長を派遣することが承認された。
 - ③「第18回日本クリニカルパス学会学術集会 ワークショップへの講師派遣」については、12月1日（金）、グランキューブ大阪において、「JAHISの標準化活動や取り組み等」の演者として、電子カルテ委員会の井上委員長を派遣することが承認された。
 - ④「IHE International 内視鏡ドメイン委員の派遣」については、天野委員の退任に伴い、後任として、細谷良一氏（オリンパス）を派遣することが承認された。
 - ⑤「臨床検査項目標準マスター運用協議会 標準マスター再構築WG/マスター共用化サブWG(WG1-2)及び運用体制整備WG(WG2)委員の派遣」については、川田専門委員長の退任に伴い、後任として、千葉法俊氏（アイテック阪急阪神）を派遣することが承認された
- (2)「医療・創薬データサイエンスコンソーシアム」人材育成研修（運営本部/代表機関：東京医科歯科大学、企業提携担当：シード・プランニング、バイオ産業化情報コンソーシアム）の研修生募集案内をJAHIS会員へ紹介することが承認された。
- (3) 医療情報学連合大会への協力内容については、JAMIで整備中の「学術大会運用手順書（案）」にJAHISの協力内容が実態と異なる記載があることが判明したため、実態に合わせた修正案をJAMIへ提示すると共に、JAHISの立ち位置を明確にすることが承認された。
- (4) 鈴木事務局長の雇用契約を延長し、2017/12/1～2018/11/30で再契約することが承認された。
- (5) 会計システム更新については、契約先企業を浅野商事(株)（千葉測器グループ）とし、発注することが承認された。
- (6) 検査システム委員会については、鈴木一洋氏（放射線治療WG）を特別委員とする委嘱願いが承認された。

2017年度 第8回運営会議議事録

<日時>：2017年11月14日（火）15:00～16:40

<場所>：JAHIS第1～第3会議室

（1）対外活動申請

- ①「第37回医療情報学連合大会 知人の輪をひろげる会での挨拶」については、下邨運営会議議長がJAHISを代表して挨拶を行うことが承認された。
- ②「訪問看護レセプト電子化に係る仕様調整会議への委員派遣」については、委員として、介護システム委員会の高橋副委員長と石川委員、電子レセプト委員会の西口委員長を派遣することが承認された。
- ③「看護実践用語標準マスター 利活用セミナーへの座長派遣」については、12月16日（土）、神戸市立医療センター中央市民病院において、「平成29年度厚生労働省標準規格の看護用語：『看護実践用語標準マスター』利活用セミナー：標準マスターを上手に使おう！」の座長として、病棟業務支援システム専門委員会の木戸委員を派遣することが承認された。
- ④「健康診断結果報告書規格検討会議（JAHIS-日本HL7協会合同 健康診断結果報告書規格WG）への委員派遣」については、委員として、健康支援システム委員会の鹿妻委員長、木内副委員長、井上副委員長、大根田委員長を派遣することが承認された。

（2）戦略企画部については、新里雅則氏（シーエスアイ、E会員）を企画委員会委員とする委嘱願いが承認された。

（3）標準化推進部会における予算修正については、「HIMSS18参加者の増員（3名→4名）」に伴う国際標準化委員会予算の調整、及び「パンフレット印刷費用の増加」に伴う部会運営予算から普及推進委員会への流用が承認された。

2017年度 第9回運営会議議事録

<日時>：2017年12月19日（火）15:00～17:30

<場所>：JAHIS第1～第3会議室

（1）対外活動申請

- ①「厚生労働省 医療等分野のネットワーク接続の機関認証に関する調査研究業務への委員派遣」については、委員として、セキュリティ委員会の茗原委員長を派遣することが承認された。
- ②「医療・介護連携の推進に関する検討会への委員派遣」については、委員として、医療介護連携WGの光城リーダを派遣することが承認された。

（2）医療情報利活用推進TFについては、JAHISとしてビッグデータ収集に向けた標準化に取り組むために設置することが承認された。

（3）厚労省事業の公募「電子処方せんの運用における『電子処方箋標準フォーマット』の改定支援業務」を受託した日本薬剤師会の請負事業「H29電子処方箋CDA改訂支援」を受託することが承認された。

（4）JAMI主催の学術大会等への支援作業については、「支援作業は負担が過大にならないように協力可能な範囲で行うものとし、その都度（大会ごとに）、運営会議で判断する」、「実行委員とプ

ログラム委員は役職連動としない」の2つが承認された。

- (5) 2017年度IT化計画については、下期のシステム改修項目として、「委員会出席登録・管理システム」、「電子投票システム」、「ファイル共有システム」、「教育受講システム」、「各種申請用紙ページ」の機能仕様と費用が承認された。

2017年度 第10回運営会議議事録

<日時>：2018年1月23日（火）15:00～17:15

<場所>：JAHIS第1～第3会議室

(1) 対外活動申請

- ①「厚労省委託事業『電子処方せん運用における「電子処方箋標準フォーマット」改定支援一式』の有識者会議への委員及びオブザーバ派遣」については、委員として、電子処方せん実装ガイドTFの木村リーダ、茗原委員、吉村委員、また、オブザーバとして、同TFの安田委員、井上委員、野村委員、西田委員、竹中委員、守屋委員を派遣することが承認された。
- ②「医療分野のセキュリティ有識者としてのインタビューへのインタビュー派遣」については、インタビューとして、セキュリティ委員会の茗原委員長を派遣することが承認された。
- ③「臨床検査自動化学会 POC技術委員会委員への委員派遣」については、委員として、臨床検査システム専門委員会の弘田委員を派遣することが承認された。
- ④「第3回協働の会での医療分野IoT発表への演者派遣」については、3月6日（火）、演者として、セキュリティ委員会の茗原委員長を派遣することが承認された。

- (2) 谷口事務局部長の雇用契約を延長し、2018/4/1～2019/3/31で再契約することが承認された。

- (3) 機能別組織導入については、提示された構想案で推進することが承認された。

- (4) 2017年度表彰候補者の推薦と選考会については、提示された候補者選出、提出方法、選考会の開催日、表彰日、候補者対象基準等が承認された。

- (5) JAHIS事務局フロアの次期コピー機（3台）の選定は、キヤノン製とすることが承認された。

- (6) 日薬展示委員会の副委員長選出については、亀田副委員長の後任の位置づけで、互選により、山田猛氏（E会員、(株)ユニソフトウェアリサーチ取締役執行役員）の部会推薦があり、候補者として承認された。正式には会長が委嘱する。

- (5) 鈴鹿医療科学大学大学院の「2018年度大学院医療科学研究科 医療科学専攻 名古屋サテライトキャンパス（春期入学）」の募集案内をJAHIS会員企業へ紹介することが承認された。

2017年度 第11回運営会議議事録

<日時>：2018年2月13日（火）15:00～16:40

<場所>：JAHIS第1～第3会議室

(1) 対外活動申請

- ①「第66回日本輸血・細胞治療学会総会ワークショップ発表への演者派遣」については、5月25日（木）、栃木県総合文化センターにおいて、演者として、電子カルテ委員会の高山和也委員と大林直樹委員を派遣することが承認された。

- ②「介護事業所におけるICTの活用等によるサービス提供の支援に関する調査研究事業への委員派遣」については、委員として、福祉システム委員会の金本委員長、介護事業者間連携WGの鴻谷リーダ、介護システム委員会の畠山委員長を派遣することが承認された。
- (2) 黒野副室長の雇用契約を延長し、2018/4/1～2019/3/31で再契約することが承認された。
- (3) 戦略企画部については、橋詰明英氏（ヘルスソフトウェア対応委員会）、長谷川英重氏（保健医療福祉情報基盤検討委員会）を特別委員とする委嘱願いが承認された。
- (4) 定例理事会の配布資料（審議資料、報告資料）と準備資料について、承認された。
- (5) JAHIS 事務所内の電話設備の老朽化に伴う設備更改については、NTT 東日本に発注することが承認された。
- (6) 医療システム部会については、喜多紘一氏（セキュリティ委員会）、中村茂之氏（セキュリティ委員会）、長谷川英重氏（セキュリティ委員会）、平田泰三氏（セキュリティ委員会）、鈴木一洋氏（検査システム委員会）の特別委員とする委嘱願いが承認された。
- (7) 保健福祉システム部会の本委員会運営費用から、地域医療システム委員会への予算流用が承認された。

総務会

総務会の主な審議事項の要旨をご紹介します。協議事項・報告事項は割愛し、審議事項のみをご紹介します。

2017年度 第5回総務会

【日時】2017年8月22日（水）15：00～16：15

【場所】JAHIS 第5会議室

【審議事項】

今回は審議事項なし。協議事項・報告事項のみとなった。

2017年度 第6回総務会

【日時】2017年9月13日（水）15：00～16：20

【場所】JAHIS 第5会議室

【審議事項】

(1) 総務会副会長の交代について

総務会副会長の交代について審議した結果、総務会としてこれを了承し、9月の運営会議に上程することを承認した。

2017年度 第7回総務会

【日時】2017年10月11日（水）16：00～17：30

【場所】JAHIS 第5会議室

【審議事項】

(1) 中期計画、来年度予算について

総務会及び事務局の中期計画、来年度予算を審議し、これを了承した。25周年記念イベントについては一時金での対応も含めて検討し、中期計画に組み込むことを了承した。

2017年度 第8回総務会

【日時】2017年11月15日（水）15：00～16：20

【場所】JAHIS 第5会議室

【審議事項】

(1) コンプライアンス委員会に提出する総括表について

コンプライアンス委員会に提出する総務会の自己監査結果及び体制について審議を行った結果、監査結果及び体制は適正と認められ、総務会として原案どおり了承した。

2017年度 第9回総務会

【日時】2017年12月13日（水）15：00～16：35

【場所】JAHIS 第5会議室

【審議事項】

今回は審議事項なし。協議事項・報告事項のみとなった。

2017年度 第10回総務会

【日時】2018年1月24日（水）15：00～16：20

【場所】JAHIS 第5会議室

【審議事項】

(1) 総務会内での表彰対象者の選出

総務会からの表彰推薦者を審議した結果、今回は「該当なし」とすることを了承した。

(2) 個人情報保護規定について

JAHIS個人情報保護規定（規程5027号）の改定ポイントについて審議し、次回（2月14日）総務会までメールにてコメントを受け付けた上で総務会の了承を取り付け、続く戦略企画部会議に報告することを了承した。

(3) 会員外講師謝金に関する規程（修正案）について

JAHIS会員外講師謝金に関する規程（規程5012号）の改訂案を審議し、委員から出たコメントを反映したものを総務会で了承することとした。

2017年度 第11回総務会

【日時】2018年2月14日（水）15：00～16：35

【場所】JAHIS 第5会議室

【審議事項】

(1) 個人情報管理取扱規程について

個人情報管理取扱規程の改訂案について審議した結果、一部更なる検討が必要となったためメール審議で委員の賛同を得ることを条件に、総務会として改定案を了承した。これを受け、3月の戦略企画部会議にて同規程の改訂を報告することとした。

委員派遣ならびに協賛・後援（2017年9月～2018年2月）

委員派遣

1. 厚生労働省

「訪問看護レセプト電子化に係る仕様調整会議」委員

医事コンピュータ部会 介護システム委員会&電子レセプト委員会

介護システム委員会副委員長 高橋 和彦

介護システム委員会委員 石川 竜太

電子レセプト委員会委員長 西口 妙子

2. 厚生労働省

「中央社会保険医療協議会診療報酬調査専門組織（DPC評価分科会）」委員

DPC委員会委員長 舌間 康幸

3. 厚生労働省委託事業

「医療等分野のネットワーク接続の機関認証に関する調査研究業務」委員

医療システム部会

セキュリティ委員会委員長 茗原 秀幸

4. 厚生労働省委託事業

「地域における医療・介護の連携強化に関する調査研究」委員

医事コンピュータ部会

介護システム委員会委員長 畠山 仁

戦略企画部

運営幹事（事業推進部担当） 真野 誠

5. 厚生労働省受託事業

「介護サービスにおける情報通信技術活用実証研究事業」委員

保健福祉システム部会

福祉システム委員会委員長 金本 昭彦

6. 厚生労働省委託事業

「電子処方せんの運用における『電子処方箋標準フォーマット』改定支援一式」

【委員】電子処方せん実装ガイドTFリーダー 木村 雅彦

【委員】電子処方せん実装ガイドTF委員 茗原 秀幸

【委員】電子処方せん実装ガイドTF委員 吉村 仁

【オブザーバ】電子処方せん実装ガイドTF委員	安田 典弘
【オブザーバ】電子処方せん実装ガイドTF委員	井上 貴宏
【オブザーバ】電子処方せん実装ガイドTF委員	野村 英行
【オブザーバ】電子処方せん実装ガイドTF委員	西田 潔
【オブザーバ】電子処方せん実装ガイドTF委員	竹中 裕三
【オブザーバ】電子処方せん実装ガイドTF委員	守屋 和昭

7. 厚生労働省委託事業

「介護事業所におけるICTの活用等によるサービス提供の支援に関する調査研究事業」

福祉システム委員会委員長	金本 昭彦
介護事業者間連携WGリーダ	鴻谷 則和
介護システム委員会委員長	畠山 仁

8. NEDO 受託事業

「保育事業のIoT技術利用によるデータベース及びプラットフォームの検討」委員

保健福祉システム部会

福祉システム委員会委員長	金本 昭彦
--------------	-------

9. 総務省受託事業

「医療・介護連携の推進に関する検討会」委員

保健福祉システム部会 地域医療システム委員会

医療介護連携WGリーダ	光城 元博
-------------	-------

10. IHE International

「内視鏡ドメイン」委員

医療システム部会 検査システム委員会

内視鏡部門システム専門委員会委員	細谷 良一（前任から交代）
------------------	---------------

11. 日本臨床検査医学会 臨床検査項目標準マスター運用協議会

「標準マスター再構築WG/マスター共用化サブWG(WG1-2)及び運用体制整備WG(WG2)委員」

医療システム部会 検査システム委員会 臨床検査システム専門委員会

専門委員長	千葉 法俊（前任から交代）
-------	---------------

12. JAHIS-日本HL7協会合同 健康診断結果報告書規格WG

「健康診断結果報告書規格検討会議」普及促進活動検証委員会

保健福祉システム部会

健康支援システム委員会委員長	鹿妻 洋之
----------------	-------

健康支援システム委員会副委員長	木内 邦光
健康支援システム委員会副委員長	井上 裕之
健康支援システム委員会副委員	大根田 隆

13. 臨床検査自動化学会

「POC技術委員会」委員

医療システム部会 検査システム委員会

臨床検査システム専門委員会委員 弘田 浩之

協賛・後援

- | | |
|--|----|
| 1. 特定非営利活動法人 ASP・SaaS・クラウド コンソーシアム
ASPIC IoT・クラウドアワード2017 | 後援 |
| 2. 日本薬剤師会 第50回日本薬剤師会学術大会（併設展示） | 協賛 |
| 3. 日本医用画像工学会 第37回日本医用画像工学会大会 | 後援 |
| 4. 日本医業経営コンサルタント学会
第22回日本医業経営コンサルタント学会 | 後援 |
| 5. 日本生体医工学会 第24回第1種ME技術実力検定試験及び講演会 | 協賛 |

会員窓口宛と全員宛てメール

2017年8月24日～2018年2月28日

通知 番号	宛先	タイトル	発行日
24	窓口	【お知らせ】NISCからの情報提供 「サイバーセキュリティ月間（2月1日～3月18日）」普及啓発活動について	2018年2月27日
22	窓口	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第207号	2018年2月16日
14	全員	第64回HL7セミナーのご案内	2018年2月16日
20	窓口	【お知らせ】GS1ヘルスケアジャパン協議会オープンセミナー	2018年2月9日
19	窓口	【パスワード通知】【お知らせ】NISCからの情報提供 T395-2 Adobe Flash Player の未修正の脆弱性（CVE-2018-4878）に関する 注意喚起	2018年2月8日
18	窓口	【お知らせ】NISCからの情報提供 T395-2 Adobe Flash Player の未修正の脆弱性（CVE-2018-4878）に関する注意喚起	2018年2月8日
17	窓口	【パスワード通知】【お知らせ】NISCからの情報提供 T395【全分野】Adobe Flash Playerの脆弱性（APSA18-01）に関する注意喚起について	2018年2月8日
16	窓口	【お知らせ】NISCからの情報提供 T395【全分野】Adobe Flash Playerの脆弱性（APSA18-01）に関する注意喚起について	2018年2月8日
13	全員	2018年度JAHIS教育コース開催のご案内	2018年2月7日
12	窓口	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第206号	2018年2月2日
11	窓口	修正再送【ご協力お願い】HELICS協議会「医療情報標準化指針普及率調査について」	2018年1月31日
10	窓口	【ご案内】次年度の会費ご請求及び会員種別変更について	2018年1月24日
9	窓口	修正再送【お知らせ】鈴鹿医療科学大学様からのご案内について	2018年1月24日
8	窓口	【お知らせ】NISCからの情報提供 米国インディアナ州の病院 “Hancock Health” がランサムウェアに感染した件について	2018年1月22日
7	窓口	医療安全情報等の共有（2018年No. 1）について	2018年1月22日
6	窓口	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第205号	2018年1月17日
4	窓口	【パスワード通知】【お知らせ】NISCからの情報提供 T392【全分野】マイクロソフト社セキュリティ更新プログラム公開に関する注意喚起について	2018年1月5日
3	窓口	【お知らせ】NISCからの情報提供 T392【全分野】マイクロソフト社セキュリティ更新プログラム公開に関する注意喚起について	2018年1月5日
168	窓口	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第204号	2017年12月26日
167	窓口	【パスワード通知】【お知らせ】NISCからの情報提供 T387【全分野】Mirai亜種の感染活動に関する注意喚起について	2017年12月20日
166	窓口	【お知らせ】NISCからの情報提供 T387【全分野】Mirai亜種の感染活動に関する注意喚起について	2017年12月20日
165	窓口	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第203号	2017年12月13日
163	窓口	医療安全情報等の共有（2017年No. 11）について	2017年12月6日
162	窓口	【パスワード通知】【お知らせ】NISCからの情報提供 T386【全分野】Apache Struts 2脆弱性注意喚起について	2017年12月4日
161	窓口	【お知らせ】NISCからの情報提供 T386【全分野】Apache Struts 2脆弱性注意喚起について	2017年12月4日

通知 番号	宛先	タイトル	発行日
159	窓口	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第202号	2017年11月28日
158	窓口	公正取引委員会及び経済産業省からの要請／下請取引の適正化について	2017年11月28日
157	全員	(再) JAHIS標準・技術文書解説セミナー（地域医療連携）のご案内	2017年11月27日
156	全員	(再)【JAHIS会員限定】「JAHIS勉強会」（先端技術）開催のご案内	2017年11月20日
155	窓口	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第201号	2017年11月14日
154	全員	(再) JAHIS標準・技術文書解説セミナー（地域医療連携）のご案内	2017年11月14日
153	全員	厚生労働省補助事業「保健医療福祉分野の公開鍵基盤HPKIセミナー」のご案内（兵庫県開催）	2017年11月13日
151	窓口	【ご協力をお願い】ASPIC「ASP・SaaS事業者が医療情報を取り扱う際の安全管理に関するガイドライン」の利活用状況調査について	2017年11月9日
152	全員	(再)【JAHIS会員限定】「JAHIS勉強会」（先端技術）開催のご案内	2017年11月8日
150	全員	(再) JAHIS標準・技術文書解説セミナー（地域医療連携）のご案内	2017年11月6日
148	全員	【お知らせ】総務省「実践的サイバー防御演習 CYDER」受講のご案内について	2017年10月27日
147	窓口	【パスワード通知】【お知らせ】NISCからの情報提供 T383【全分野】ランサムウェアBadRabbitに関する注意喚起について	2017年10月26日
146	窓口	【お知らせ】NISCからの情報提供 T383【全分野】ランサムウェアBadRabbitに関する注意喚起について	2017年10月26日
145	窓口	医療安全情報等の共有（2017年No. 10）について	2017年10月26日
144	窓口	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第200号	2017年10月25日
142	全員	JAHIS標準・技術文書解説セミナー（地域医療連携）のご案内	2017年10月23日
141	窓口	医療・創薬データサイエンスコンソーシアム主催「データサイエンティスト育成研修説明会」のご案内	2017年10月19日
140	窓口	【パスワード通知】【お知らせ】NISCからの情報提供 T379__【全分野】WPA2の脆弱性に関する注意喚起について	2017年10月18日
139	窓口	【お知らせ】NISCからの情報提供 T379__【全分野】WPA2の脆弱性に関する注意喚起について	2017年10月18日
138	全員	第63回HL7セミナーのご案内	2017年10月17日
137	窓口	医療安全情報等の共有（2017年No. 9）について	2017年10月16日
136	窓口	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第199号	2017年10月11日
135	全員	JAHIS会誌 第61号発刊のお知らせ	2017年10月6日
134	窓口	医療安全情報等の共有（2017年No. 8）について	2017年10月3日
130	全員	(再) 2017年度JAHIS教育コース開催のご案内	2017年10月2日
133	全員	「JAHIS勉強会」（改正個人情報保護法）の募集について	2017年9月29日
132	全員	【ご案内】リスクマネジメント・トレーニング講座開催について	2017年9月29日
131	窓口	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第198号	2017年9月28日
129	窓口	医療安全情報等の共有（2017年No. 7）について	2017年9月25日

通知 番号	宛先	タイトル	発行日
128	全員	(再)【JAHIS会員限定】「JAHIS勉強会」(改正個人情報保護法)開催のご案内	2017年9月25日
125	窓口	医療安全情報等の共有(2017年No. 6)について	2017年9月21日
124	窓口	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第197号	2017年9月13日
123	全員	【JAHIS会員限定】「JAHIS勉強会」(改正個人情報保護法)開催のご案内	2017年9月11日
122	窓口	[パスワード通知]【第2報】NISCからの情報提供 Apache Struts 2 の脆弱性(CVE-2017-9805)(S2-052)について(注意喚起)	2017年9月7日
121	窓口	【第2報】NISCからの情報提供 Apache Struts 2 の脆弱性(CVE-2017-9805)(S2-052)について(注意喚起)	2017年9月7日
120	窓口	[パスワード通知] Ja06h20is1709	2017年9月6日
119	窓口	【お知らせ】NISCからの情報提供 T373_【全分野】Apache Struts 2の脆弱性に関する注意喚起について	2017年9月6日
116	窓口	【お知らせ】「Health2.0 11th Annual Conference」参加費の割引について	2017年8月24日
114	窓口	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第196号	2017年8月24日

会員紹介

会誌第61号（2017年10月発行）での会員紹介以降に、本年3月末日までに10社の新しい会員をお迎えしました。入会された会社の業務概要やJAHISへの参加目的、活動する上でJAHISに望むことなどについて自己紹介をしていただきます。このコーナーへ寄稿をいただいた会員の原稿を入会順に掲載します。

紹介項目	◆ 会社名
	◆ 郵便番号、所在地
	◆ 電話番号
	◆ ホームページURL
	◆ 会員連絡窓口の所属、役職、氏名
	◆ 会社紹介

株式会社JR東日本情報システム

<本社>〒169-0072 東京都新宿区大久保三丁目8番2号 新宿ガーデンタワー 7F

<医療情報システム室>〒169-0072 東京都新宿区大久保三丁目8番2号 新宿ガーデンタワー 9F

TEL：03-5309-4178

URL：http://www.jeis.co.jp/

医療情報システム室 リーダー 山田 忍

弊社は1989年11月にJR東日本の情報システム部門を分離、独立する形で発足しました。以来、JR東日本の経営システム、営業システム、輸送システム、設備システム、ネットワークなど多岐に渡るシステムの開発及び運営を担っています。

医療分野については、2006年のJR東京総合病院の電子カルテ導入に伴い、JR東京総合病院医療情報システム（電子カルテ・医事会計システム・各部門システム・人間ドックシステム等々JR東京総合病院内システム全般の総称）の運用保守及び新規開発（HW、SW両方）を一手に担い始めると共に、JR東日本及びグループ社員の健康を保つための健康管理システム（出張健診システムを含む定期健診のシステム）の自社開発及び運営も行っており、2015年10月には保健・医療関連のシステムを担当する専門部署として『医療情報システム室』が発足し、現在に至っています。

システムを利用する病院スタッフ及び患者さまに対して、使いやすく、安心してご利用いただける品質の高いシステムとサービスを提供し続けられるように、365日24時間の体制で日々業務にあたっています。

貴会ならびに会員の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

ソニー株式会社

〒108-0075 東京都港区港南 1-7-1

TEL : 03-6748-2111 (代表)

URL : <https://www.sony.co.jp/>

harmo 事業室 事業企画課 統括課長 福士 岳歩

.....

ソニーは1946年の創業以来、音と映像を中心とするエレクトロニクス事業にとどまらず、ゲーム&ネットワークサービス事業や映画・音楽といったエンタテインメント事業、保険や銀行を中心とした金融事業など、事業の枠にとらわれず、新しい感動や文化を創り出すことを目指して事業を展開しております。2012年にはソニーが長らく培ってきました情報技術に新たに開発した個人情報分離に関する特許技術を加え、患者様のための電子お薬手帳「harmo (ハルモ)」を開発し、ヘルスケア事業に参入、試験サービスを経て2016年より事業化しております。現在は、全国約900の薬局、病院、医院等に加わり、約24万人(2018年1月時点)の方にサービスをご利用いただいております。加えて、昨年にはデジタルならではの利点を生かした機能として、対象のお薬を服用されている患者様のみに情報をお届けする服薬サポートサービスを開始いたしました。電子お薬手帳についての認知は徐々に広まってきておりますが、お薬の管理にお困りの患者様もまだ数多くいらっしゃる状況です。より使いやすく、便利な電子お薬手帳の開発、普及を通じて患者様の健康に貢献していく所存です。

貴会ならびに会員の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

みらい工房株式会社

〒870-0156 大分県大分市高城新町 4 番 9 号

TEL : 097-554-2207

URL : <http://www.mirai-koubou.jp/>

システム開発部 福祉システム担当 係長 徳部勝樹

.....

弊社は創業以来、「お客様に喜ばれる製品作りとサービスを通じて、社会に貢献すること」を使命とし、一貫して福祉系業務システム等を自社開発し、保守サポートも自社で行い全国に販売展開をしております。また、お客様の実情に合わせローカライズ、カスタマイズにも柔軟に対応し、お客様に更に喜ばれる使い易いシステム作りを目指し、日々邁進してまいります。

これからも日本の医療・福祉の発展により貢献できる付加価値の高い新たな製品を生み出していく所存です。

貴会ならびに会員の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

株式会社LITALICO

〒153-0051 東京都目黒区上目黒2-1-1 中目黒GTタワー 15階

TEL : 03-5704-7350

URL : <http://litalico.co.jp/>

情報システム部システム開発グループ 磯貝 和樹

弊社は「障害のない社会をつくる」というビジョンを実現するべく、障害のある方にとって就労が困難な現状や、多様な学習ニーズに対応できていない現状といった社会課題の解決に取り組んでいます。

就労移行支援事業、児童発達支援事業、放課後等デイサービスなどの障害福祉サービス事業所を全国展開し運営するほか、ITを活用したものづくり教室などの公費事業だけではない周辺領域への拡大、障害のある方やそのご家族を対象としたインターネットを利用した情報プラットフォームの構築にも取り組んでいます。

弊社では公費事業の業務システムをIT部門にて内製で開発運用しています。

障害福祉サービスの事業者である弊社自身がシステムを開発運用する中で得られた知見もあるかと思いますので、それが貴会ならびに会員の皆様方の一助となれば幸いです。

今後とも皆様方のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

株式会社DNPアイディーシステム

〒160-0022 東京都新宿区新宿四丁目3番17号

TEL : 03-3350-4611

URL : http://www.dnp.co.jp/dnp_idsystem/

企画技術本部企画開発部企画グループ 主任 加藤 優一

DNPアイディーシステムは、長年IDカードビジネスの最前線で培った知見・経験をベースに、IDカードの作成・運用にまつわる信頼性の高いソリューションを展開いたしております。

私たちが提供しているIDカード、IDカードプリンタ、カードの偽変造を判断するシステム、これらの基本機能はシンプルですが、いずれも、これまで培ってきた様々な技術、知識、ノウハウによって成り立っています。

私たちは、常にお客様の立場に立って製品開発をし、さらにお客様の課題を迅速に解決する、様々なソリューションを提供していきたいと考えています。その際には、DNPグループの一員として、広がりのある豊富な知的資源を最大限に活用することで様々な製品、サービスを提供できるものと確信しております。

私たちはIDビジネスに長年携わってきた企業として、社会的責任をもって、IDの本質である「信頼」の確保、保証のために努力していくことをお約束いたします。そして、日本の医療の発展により貢献できる付加価値の高い新たな製品を生み出していく所存です。

貴会ならびに会員の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

新任のご挨拶

事務局総務部長

谷口 浩一 Taniguchi Koichi



皆様、初めまして。昨年10月に総務部長に着任した谷口浩一です。既に半年を過ぎてしまいましたが、改めてご挨拶を申し上げます。就任以来、これまでに会誌61号・62号の発刊、新年の講演会・賀詞交換会の企画運営、2月の定例理事会と、JAHISの重要行事を何とか務めることができました。これも大滝前部長や事務局及び会員の皆様のご支援があればこそと心より感謝しております。業務の引継ぎでは、大滝前部長から総務部長の仕事を「月、日の単位で」記載した「年間作業リスト」を渡されて、その分厚さ(?)に慄きました。ですがそのリストが今では日々の業務を進める貴重なバイブルとなっています。また事務局や会員の皆様にも温かく迎えていただき、アットホームな雰囲気楽しく仕事をさせていただいています。

ここで少し自己紹介をさせていただきます。JAHISに来る前は、日本アイ・ビー・エム株式会社(IBM)で35年勤務しておりました。研究員として入社をし、その後は公共部門のお客様向けの営業やソリューション営業を務め、最後は渉外部門で仕事をしました。渉外ではICT系の他の工業会(複数)にも参加していたのですが、いずれも委員として自由奔放に振舞っておりました。翻って事務局の仕事は初めてなので、委員当時は気づかなかった事務局の苦労(?)も味わいつつ、当時の言動をいささか反省しているところです。

さて、外資系企業しか知らない私がJAHISのオフィスに来て驚いたこと、新鮮だったことをご紹介します。皆様の職場では当たり前かもしれませんが、「こんなことが新鮮なの?」と文化の違いを感じていただければ幸いです。

(1) 毎朝、掃除に来てくれる。ゴミも捨ててくれる

毎朝、オフィスの清掃に来て下さって席の周りをきれいにさせていただきます。ゴミも毎日取りにきていただけます。IBMでは自分でやるのが当たり前だったので、日々感謝しております。

(2) コーヒーやキャンディーが常備されている!

もちろん会員様向けに用意されているものですが、事務局員もご相伴にあずかっています(ナイスヨ?)

(3) 電子レンジ、冷蔵庫、トースターがある

冷蔵庫には事務局メンバーが各自、飲み物を冷やしたりサンドイッチを入れたりしています。先日は「差し入れ」でいただいた鯛焼きを女性スタッフがトースターで温めて下さいました。感激!

(4) ロッカーがある

生まれて初めて「自分専用のロッカー」をいただきました！以前は、机の上にスーツをブン投げておりました。

(5) 役員並み(?)の椅子

こちらも驚きました。気持ちよくて寝てしまいそうです。

(6) できる女性スタッフ！

新人（年齢はさておき）の私でも何とかやっていけるのは、3人の女性スタッフに負うところが大きいです。前述の重要行事でも、何も言わなくても「すべて完璧に」準備してくれました。安心感満載です。（「事務局部長の代わりはいるが、女性陣の代わりはいない!」、という自虐ネタも・・・笑）

(7) 自分の固定席がある

IBMでは（一部を除き）フリーアドレスだったので、お気に入りの席を取られていることもしばしば。JAHISでは安心して(?)出社することができます。

(8) 全員が9時に来ている！

事務局は9時始まり。IBMはフレックス制だったので、JAHISでは9時に全員がキッチリ揃っていることが新鮮でした。

他にもありますが、このあたりで。これからも気持ちを新たに、いただいたご縁に感謝しつつ、また会員の皆様や事務局メンバーにサジを投げられないように精進したいと思います。引続き皆様のご指導をいただけますようお願いいたします。

編集後記

執筆者の皆様には、お忙しい中、ご投稿いただき誠にありがとうございました。お陰様で会誌62号も素晴らしいでき栄えになったのではないかと感じております。

さて、今回、事務局の持ち回りで、初めて編集後記の担当となり、何を書けばよいかと思案しましたが、やはり、先日、日本中が沸騰し、感動に包まれた、4年に一度の雪と氷のスポーツ祭典、第23回冬季平昌オリンピック2018を外すことはできないでしょう。

2月8日より、18日間にわたり、連日、熱戦が繰り広げられましたが、惜しまれつつも、2月25日に閉幕しました。今回、日本の成績は、1998年の長野オリンピックの10個を超え、歴代1位となる、メダル13個（金4個、銀5個、銅4個）を獲得しました。新しい歴史を刻んだ、日本人選手の素晴らしい活躍に感動し、誇りを感じることができました。私自身も勇気をもらい、元気づけられたような気がしています。皆さんも元気をもらえたのではないのでしょうか。前を向いて、日々の仕事に頑張っていきましょう。

次は、2020年の東京オリンピックです。より身近に、世界中の国が真っ向に渡り合い、激しく競い合う光景を目の当たりにできる、大きなチャンスです。日本人選手の更なる活躍と再びの感動を期待して2年を待ちたいと思います。きっと大きな感動をもたらしてくれることでしょう。

最後に、東京オリンピック開催の前年、2019年4月21日に、JAHISは創立25周年を迎えます。これまでの活動を振り返り、会員の皆様と盛大にお祝いできることを願っております。これからの新たな歴史を刻むべく、JAHISの工業会活動が会員皆様の発展と社会に貢献し続けられるよう、事務局の立場からご支援して参ります。よろしくお願いいたします。

K.I

**一般社団法人
保健医療福祉情報システム工業会 会誌 第62号**

平成30年4月10日 発行

発行人：浅野 正治

編集委員会：編集人 谷口 浩一
委員 岩本 和則
委員 岸 和彦
委員 木下 善貴
委員 鈴木 義規
委員 中村 斉
委員 平井 健二
委員 吉野 裕夫

発行：一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会
〒105-0004 東京都港区新橋二丁目5番5号
新橋2丁目MTビル5階
電話 03-3506-8010
FAX 03-3506-8070
URL <http://www.jahis.jp>

制作：株式会社イズアソシエイツ

